

第四十五回 帝國議會 貴族院議事速記録第二十六號

大正十一年三月十六日(木曜日)

午前十時九分開議

議事日程 第二十六號 大正十一年三月十六日

午前十時開議

第一 大正十一年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)審查
期限ヲ定ムルノ件

第二 大正十年度歳入歳出總豫算追加案(第三號) 會議(委員長報告)

第三 大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第四 簡易生命保險法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 臺灣私設鐵道補助法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第六 銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第七 健康保險法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第八 和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會(委員長報告)

第九 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會(委員長報告)

第十 明治四十年法律第四十九號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會(委員長報告)

第十一 明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會(續)(委員長報告)

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔長書記官朗讀〕

一昨十四日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

大學特別會計法中改正法律案

大正八年法律第十二號中改正法律案

道路法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スヘキモノト議決シタル新舊文官ノ恩給並遺族扶助料不權衡更正ニ關スル請願外三十件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

裁判所ノ設立ニ關スル法律案外一件特別委員會

委員長 上山 滿之進君 副委員長 子爵勘解由小路資承君

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案外二件特別委員會

委員長 子爵吉田 清風君 副委員長 石塚 英藏君

傳染病豫防法中改正法律案外一件特別委員會

委員長 子爵實吉 安純君 副委員長 北里 柴三郎君

刑事訴訟法案外二件特別委員會

委員長 伯爵寺島 誠一郎君 副委員長 松室 致君

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

過激社會運動取締法案修正報告書

和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

大湯鐵道魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

昨十五日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

府縣制中改正法律案外五件特別委員會

委員長 大久保 利武君 副委員長 男爵南岩倉 具威君

陪審法案特別委員會

委員長 伯爵松本 宗隆君 副委員長 磯部 四郎君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

大正十年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)可決報告書

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案可決報告書

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案可決報告書
明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案可決報告書

請願文書表第八回報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

大正十一年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

簡易生命保險法中改正法律案

臺灣私設鐵道補助法案

銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案

健康保險法案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、請暇ノ件ニ付テ御諮リヲ致シマス、外松男爵病氣ニ付會期中ノ請暇デゴザイマス、許可ヲ致スコトニ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、日程第一、大正十一年度歳入歳出總豫算追加案第一號審査期間ヲ定ムルノ件

〔左ノ送付文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

(第一號)大正十一年度歳入歳出總豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十一年三月十五日

衆議院議長 奥 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

○子爵前田利定君 本員ハ日程第一ヲ延期シタイト云フ動議ヲ提出イタシマス、即チ大正十一年度歳入歳出總豫算追加案、第一號、審査期限ヲ定ムルノ件ト云フ議事ヲ他ノ機會ニ延期シタイト云フ動議ヲ提出イタシマス、而シテ……

○議長(公爵德川家達君) 前田子爵、御登壇ヲ請ヒマス

〔子爵前田利定君演壇ニ登ル〕

○子爵前田利定君 唯今皆サマノ御聽キノ通りニ、本日ノ日程ノ第一ヲ他ノ

機會ニ延期スルト云フ動議ヲ提出イタシマス、御誤解ノナイヤウニ、延期スル理由ヲ明白ニ申述ベタイト存ジマス、御承知アラセラレル通り、大正十一年度總豫算案ハ去月二月十八日ニ豫算委員ニ審議ヲ御付託ニナツテ居リマス、豫算委員會ハ去月二月二十日ヨリ今日ニ至ルマデ、孜々トシテ其審議ニ奮勵ヲ致シテ居ルノデアリマス、而シテ豫算委員會ニ於キマシテハ、質問ノ通告者ガ五十名アリマシテ、尙臨時ニ質問ヲ申込マレタ御方ヲ加算イタシマス、約六十名ニ延人員ガナルノデアリマス、而モ本年度ノ豫算會ニ於キマシテハ、例年ト異ナリマシテ、華府會議、之ニ關聯イタシマシテ防備制限、或ハ海軍ノ比率問題、内政方面ニ於キマシテ綱紀肅正ニ關スル質問、是ナドガ最モ質問ガ多クゴザイマシテ、ソレガ爲ニ漸ク昨十五日ヲ以チマシテ、豫算ノ諸案ガ分科會ニ移スコトガ出來タト云フヤウナ有様デアリマス、而シテ分科會ハ今日ヨリ十九日迄、四日間ニソレゾレ擔任セラレル所ノ豫算案ヲ御審議ニナリマシテ、來月三月二十日午後ニ開カレル所ノ豫算總會デ、各主査ヨリ御報告ヲ承ハルト云フ手筈ニナツテ居ルノデアリマス、分科會ノ審査ガ四日間ト云フコトハ、洵ニ是マデナイコトデアリマシテ、何時ノ議會ニ於キマシテモ少ナクトモ、一週間ヲ分科ノ審議ニ充當スルノデアリマス、併ナガラ會期モ切迫イタシテ居リマスシ、豫テ三月二十二日マデニ十一年度總豫算案ノ審議ヲ終了シテ、御報告ヲシナクレバナラスコトニナツテ居ルノデアリマスルガ故ニ、甚ダ分科ノ方ニ於カセラレマシテハ御氣ノ毒ニ存ジマスケレドモ、僅々四日間ニ豫算ノ審議ヲ願フテ居ルヤウナ次第アルノデアリマス、元ト豫算ノ審査期限ニ付マシテハ最初二十一日間即チ、三月十日迄ニ審議ヲ終了シテ、御報告ヲスルト云フコトニ御同意ヲ得テ居ッタノデアリマスルガ、其後豫算委員會ノ經過ニ鑑ミ、質問者ノ多クアル所ニ考ヘマシテ、三月六日ニ皆サマニ御諮リヲ致シマシテ、三月二十二日マデ審査ノ期限ヲ延長ヲ願ヒマシタ次第デアリマス、是等ハ全ク十一年度ノ總豫算ヲ審議イタシマスルニ、必要已ムヲ得ザル所ノ日數デアアルノデアリマス、審査期限ヲ十二日、三月十日ヨリ二十日マデ、即チ十二日ヲ延長イタシマシタト云フコトハ是迄ニナイコトデアリマス、併ナガラ能ク考ヘテ見マスルト云フト、普通選舉ノ問題ニ於キマシテ衆議院ニ於キマシテハ、去月二十三日カラ二十五日ニ互リマシテ、議會ガ續イテ開カレタト云フヤウナコトデアリマシテ、國務大臣ノ豫算委員會ニ出席ヲ請フ譯ニイカスト云フ事情ガアリマシタ、又去月二十七日ハ陪審法案ガ樞密

院ニカカルト云フコトデアリマシテ、國務大臣ハ當議院ノ方ニ御出席ガ叶ハスト云フヤウナ事情ガゴザイマシタ、ソレコレ衆議院ノ都合、國務大臣ノ御都合ニ依リマシテ、數日ノ間ハ豫算委員會ヲ開クコトヲ得ナカッタデアリマス、故ニ二十二日ヲ延長シタト云フコトハ是迄ノ記録ニ無イ延長デアリマスケレドモ、仔細ニ考ヘテ見マスト餘リ多クノ日數ヲ貪ッタ譯デナイト云フコトハ明瞭デアアルデアリマス、若モ此場合ニ於キマシテ、日程第一ノ議事ガ御進行ニナルト云フコトニナリマシタナラバ、此問題ニ付マシテハ教育上ノ見地ヨリ、又ハ政治上ノ立場ヨリ、質疑ノ多ク續出スルト云フコトハ、想像スルニ餘リアル次第デアリマス、若シモ本議事ノ爲ニ多クノ日時ヲ費シマシタナラバ、豫算委員ニ是ヨリ先ニ御付託ニナリマシタ所ノ、大正十一年度ノ總豫算案ヲ審議イタシマスコトガ、到底來ル二十二日マデニハ決了ハ出來兼ネマス、然ル場合ニ於キマシテハ、大正十一年度ノ總豫算案モ、俗ニ申ス所ノ昇格ノ豫算案モ、共ニ會期中ニハ兩方共ニ審議ガ出來兼ナルト云フヤウナコトニ立至ルヤモ測リ知レヌデアリマス、會期ノ延長ト申スヤウナコトハ大權ノ發動デアリマシテ、我々ガ之ヲ期待スル譯ニハ參ラヌデアリマス、カルガ故ニ本案議事ヲ日程ニ上ボセラレマシテ、議事ヲ御開キニナルト云フコトハ、來ル二十二日以後ニ願ハナケレバナラスデアリマス、斯ク申セバトテ、私ハ決シテ此昇格ノ豫算案ヲ握リ潰シヤウナ底心ヲ持チ、或ハ又他意アツテ之ヲ後廻ハシニスルト云フヤウナ次第デハ毛頭ナイデアリマス、回顧イタシマスレバ昨年ノ二月九日ニ於キマシテ、本議場ニ高等教育機關ニ關スル建議案ト云フモノガ上程サレタデアリマス、其發議者ノ一人ト致シマシテ、且ツ又其説明ノ衝ニ當リマシタ私ト致シマシテハ、此昇格豫算案ニハ縁故深キ者ノ一人デアアルデアリマス、抑、其當時ノ此建議案ノ精神ト申シマスモノハ、皆サンハ正シク御記憶デゴザイマセウ、當時學界ガ紛糾イタシマシテ、其安定ヲ得ムガ爲ニ貴族院ハ一致シテ政府ニ建議イタシタノデアリマス、此學界ノ紛糾ヲ安定サシテ貰ヒタイ、昇格案ヲ御出シナサルノモ宜カラウ、又御出シニナラスノデモ他ニ適當ノ方法ガアルナラバ、措置ヲ取ツテ御貰ヒ申シタイ、要ハ此學界ノ紛糾ヲ安定シテ貰ヒタイト云フコトヲ提議イタシタデアリマス、此度政府ガ此昇格豫算案ヲ提出サレタト云フコトハ、其當時ノ貴族院ノ建議ニ鑑ミラレマシテ、學界ノ紛糾ヲ安定スル一解決ノ方法トシテ御出シニナッタモノデアラウト信ズルデアリマス、左様ナ次

第デアリマスカラシテ私ハ此昇格豫算案ノ内容ヲ篤ト拜見イタシマシテ、可トスベキモノナラバ可トシテ、否トスベキモノナラバ否トシ、此問題ヲ早ク決解ヲ致スコトニ付テハ最モ熱心ニ切望スル一人デアアルデアリマス、併ナガラ本案ヲ審議スルガ爲ニ、大正十一年度ノ豫算案ヲ此本案ト共ニ並行シテ審議スルト云フコトニナリマシタナラバ、或ハ恐ル、此兩案ノ審議決了ニ至リマス前ニ、此會期ハ過去ツテ仕舞フデアラウト云フデアリマス、斯ノ如キ狀況デアアルコトニ鑑ミマシテ、本員ハ先ヅ以テ豫算委員ニ先ニ御付託ニナリマシタ所ノ、大正十一年度ノ總豫算案ヲ間違モナク來ル二十二日マデニハ審査決了ヲ致スコトヲ努メマシテ、而シテ餘力ヲ以テマシテ努力ノ出來ル限リ、此昇格豫算案ノ議事ヲ其後ニ進行イタシタイ、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ本日ノ日程ノ第一ニ載ツテ居リマス所ノ、本案ノ審査期限ヲ定メルノ件ハ二十二日以後ニ致シタイ、斯様ナ動議ヲ提出スル次第デゴザイマス

○子爵西大路吉光君 此動議ニ賛成ヲ致シマス

○江木千之君 前田子爵ニ賛成

○男爵阪谷芳郎君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 前田子爵ニ確メテ置キマスガ、最初ハ他ノ機會マデ審議ヲ延期スルト云フコトヲ御申述ニナリマシタガ、唯今演壇デハ二十二

日マデ、日程ニ上ボセルコトヲ延期スルト云フコトヲ御述ベニナリマシタガ、

サウ議長ハ心得テ宜シウゴザイマスカ

○子爵前田利定君 他ノ機會ト申シマシタガ、期限ヲ附シマセスト無期延期

ニナリマシテモ困リマス存ジマシタカラ、二十二日ト日ヲ切りマシタ次第

デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 曩ニ御述ベニナリマシタ如ク、他ノ機會デハ議長

ハ甚ダ困ルト思ツテ居リマシタ、二十二日以後ナラ宜イト云フコトニ議長ハ解

釋ヲ致シタイト考ヘマス、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○子爵前田利定君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 賛成セラレタ御方モ其御意見グラウト考ヘマス

〔左様デゴザイマス〕ト呼フ者アリ

○議長 公爵徳川家達君) 前田子爵ノ延期ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒ

マス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第二、大正十年度歳入歳出總豫算追加案第三號、會議、委員長報告、豫算委員長前田子爵

一大正十年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)

右衆議院ヨリ送付シタル案ヲ審査シ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月十五日

豫算委員長 子爵前田 利定

貴族院議長公爵德川家達殿

〔子爵前田利定君演壇ニ登ル〕

○子爵前田利定君 唯今議題ニ上ガツテ居リマスル豫算案ニ付マシテ、去ル三月六日豫算委員ニ御付託ニナツタモノデゴザイマス、昨日豫算委員總會ヲ開キマシテ、之ヲ分科ニ移シマセズ、總會ニ於キマシテ審議ヲ致シタノデゴザイマス、最初大藏大臣ヨリ本案ノ説明ヲ聽取リマシタガ、此内容ニ付マシテハ先般大藏大臣ガ親シク此演壇デ以テ御説明ニナリマシタコトデアリマスルガ故ニ、重複ニナリマスルガ爲ニ是ハ省略イタシマス、只其概要ヲ申上ゲマスト云フト、歳出ノ金額ガ六百餘万圓デアリマシテ主ニ諸經費ノ増加要求デアリマス、豫備金支出ノ性質ニ屬スルモノガ大部分ヲ占メテ居リマス、著シイノハ南洋廳開設ノ費用ガ載ツテ居ル位ノコトデアリマシテ、而シテ是ガ財源ハ前年度ノ剩餘金ヲ以テ充當スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、臨時部ノ方ニ於キマシテハ、災害復舊費工事ノ費用ニ付マシテ借入イタシマシタ所ノ金圓ニ對スル利子ノ補給、或ハ又神宮ノ修造ノ御費用等ガ著シイモノデアリマシテ、其他格段ニ御報告ヲ申上ゲナケレバナラヌト云フモノハ見當ラヌノデゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ遞信省所管ノ恩給増加ノコトニ付マシテ一員ヨリ質問ガゴザイマシタガ、其他何等ノ質疑ガゴザイマセズ、全會異議ナク原案ヲ可決イタシタ次第デアリマス、右御報告申上ゲマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發言モ……

○江木翼君 議長

○議長(公爵德川家達君) 江木君ハドウ云フコトデスカ

○江木翼君 チョット大藏當局ニ伺ツテ見タイト思ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 質疑デスカ

○江木翼君 質疑デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○江木翼君 歳出臨時部内務省所管第一款補助費ノ項デゴザイマスガ、災害土木費ノ借入金ノ利子補給ノ件、之ヲ玆ニ決議ヲ致シテ置キマシテモ、一方ノ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ要スル件ト云フモノノ此際可決シナイ場合ニ於キマシテハ、年度ニ跨リマシタル契約ヲ大正十年度ノ即チ今月三十一日迄ニ出スコトノ出來ナイ、斯ウ云フ結果ニナリハシナイカト思ヒマスノデアリマス、其點ハ差支ガナイノデアリマス、一應承ツテ置キタイ

○政府委員(神野勝之助君) 御尋ノ通り豫算外國庫ノ負擔ト爲ルベキ契約ヲ要スル件ハ、御協賛ヲ求ムル爲ニ同時ニ提出ヲ致シテ置キマシタノデアリマスルガ、只今此豫算ダケ玆ニ議決相成リマシタニ付マシテハ、十年度分ニ對シマシテハ、豫算サヘアレバ契約ヲ致シテ宜シイト思フノデアリマス、十一年度以降ノ分ニ付マシテハ、何レ御協賛ヲ願ヒ得ルモノト考ヘマスカラ、御協賛ヲ得レバ十一年度以降ノ分ハ契約ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○議長(公爵德川家達君) 他ニ御發言モナイト存ジマスカラ、本案全部ヲ問題ニ供シ、採決ヲ致サウト存ジマス、全部豫算委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第三大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十一年三月十四日

衆議院議長 奥 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

大湯鐵道株式會社及魚沼鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ政府ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

〔國務大臣元田肇君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(元田肇君) 大湯鐵道及魚沼鐵道買收ニ關シマシテ、公債發行ノ法律案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、大湯鐵道ハ豐州線大分驛ヨリ小野屋ニ至ル十三哩六分ノ鐵道デゴザイマシテ、省既定線ノ久留米、大分間ノ鐵道中第一工區ニ屬スル小野屋、沼ノ平間ハ近々開業スルコトニ運ビマシテ尙ホソレヨリ先キモ漸次工事ガ捗リツツアルノデアリマス、斯ル場合デアリマシテ、大分ヨリ直通連轉ヲ致ス爲ニハ之ヲ買收スルノ必要ガ迫ッテ居ルノデアリマス、魚沼鐵道ハ信越線ノ來迎寺ヨリ小千谷ニ至ル八哩一分ノ鐵道デアリマス、去ル大正九年十一月朔日上越既定線宮地東小千谷間開業ニ依リマシテ打撃ヲ受ケマシテ、營業ノ廢止及ビ補償申請ヲナシテ參ッテ居ルノデアリマス、然ニ此線路ハ地方產業上、及ビ軍事上ノ見地ヨリ致シマシテ、今俄ニ之ヲ撤廢スルコトハ妥當ナラズト考慮致シマシテ、是ガ斯様ニ思考致シマスルコトハ、此鐵道線ハ國有鐵道豫定線ノ來迎寺、岩澤間ノ一部ニ該當致シテ居リマスルカラ、此際買收ノ上政府ニ於テ直營致ス必要アリト認メタ次第デアリマス、右様ノ理由デゴザイマシテ、右二鐵道買收ノ爲ニ公債ヲ發行スルノ必要ヲ認メマシテ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、比較的小サイ案件デアリマスガ、何卒速ニ御協賛ヲ得マスルヤウニ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ハ和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ特別委員ニ付託致シマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第四、簡易生命保險法中改生法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

簡易生命保險法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正十一年三月十五日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

簡易生命保險法中改正法律案

簡易生命保險法中左ノ通改正ス

第四條中「二百五十圓」ヲ「三百五十圓」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣野田卯太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(野田卯太郎君) 本案ハ極ク單簡ナコトデアリマシテ、從來簡易生命保險ノ金額ハ二百五十圓デアリマスガ、此度百圓ヲ加ヘマシテ三百五十圓ト改メマス、ドウカ御協賛ヲ請ヒマス、尤モ此本案ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ定ムルモノデゴザイマス、委細ノコトハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマスカラ御協賛ヲ請ヒマス

○阪本鈺之助君 洵ニ簡單ナ是ハ法案デゴザイマスガ、何等改正ヲサレナケレバソレマデデアリマス、改正ヲナサル位ナラバ、モウ少シ五百圓位ニナサツテ宜カリサウナモノト思フノデアリマスガ、近頃ノ金ノ位ト云フモノハ非常ニ安クナリマシテ、僅カ百圓増加スルト云フ爲ニ法律ヲ改正スルト云フコトハ、洵ニ遺憾ニ思ヒマスガ、三百五十圓トナサルコトニ付テハ深イ意味ガアリマスガ、普通ノ保險會社等ニ對シテノ御斟酌上已ムヲ得ズ此位、百圓位増シテ置カウト云フ考デアアルノデアリマスガ、何カ是等ニハ根據ガアリマスガ、何レ御改正ニナルナラバ五百圓位ニナツテハドウカト思ヒマスガ、政府委員カラデモ宜シウゴザイマス、一應御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

〔國務大臣野田卯太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(野田卯太郎君) 阪本君ニ御答致シマスガ、當局トシテハモウチット御希望ヲ實ハシテ居ッタ譯デアリマスガ、政府ニ於キマシテ後段ノ御質問ノ通り各方面ノ金融ノコトモ考慮シ、尤モ民間ノ保險ノコトモ考慮ニ這入ッテ居リマス、ソレヨリ外ニ理由ハゴザイマセヌ

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

簡易生命保險法中改正法律案特別委員

伯爵勸修寺 經雄君	子爵西大路 吉光君	男爵高千穗 宣麿君
男爵岩倉 道俱君	男爵調所 恆德君	高田 早苗君
大谷 嘉兵衛君	藤本 閑作君	三木 與吉郎君

○議長(公爵德川家達君) 日程第五、臺灣私設鐵道補助法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

臺灣私設鐵道補助法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十一年三月十五日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

臺灣私設鐵道補助法案

臺灣私設鐵道補助法

第一條 臺灣ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル私設鐵道ノ每營業年度ニ

於ケル益金カ建設費ニ對シ年八分ノ割合ニ達セサルトキハ臺灣總督ハ營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補助スルコトヲ得但シ補助金ハ

鐵道ノ建設費ニ對シ年八分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 補助ヲ爲スヘキ私設鐵道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數

區ニ分チ各區ニ付第一條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條及前條ノ規定ニ依ル建設費及益金ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ

依リ算出シタル額ニ依ル

第五條 補助金ノ年總額ハ是高八十萬圓トス

第六條 補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコ

トヲ得

第七條 補助ヲ受クル鐵道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、許可

若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

ハ臺灣總督ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條 詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償

還セシム

第九條 前條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スル

コトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十條 本法ハ專用鐵道ヲ公衆ノ用ニ供スル鐵道ニ變更シタル私設鐵道及

本法施行前營業ヲ開始シタル私設鐵道ニ之ヲ適用セス但シ此等ノ私設鐵

道ニシテ交通ノ要路ニ當リ軌間三呎六吋以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在

ニ在ラス

附 則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員男爵田健治郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(男爵田健治郎君) 本案提出ノ理由ヲ説明申上ゲマス、臺灣ノ鐵

道ノ現狀ヲ申上ゲマスルト、官設鐵道ガ約四百哩バカリ、其外ニ私設輕便鐵

道ニシマシテ、一般公衆運輸ノコトヲ兼行フモノガ三百五十哩バカリゴザイ

マス、去ナガラ此私設鐵道ハ主トシテ製糖會社ガ自己ノ製糖原料タル甘蔗ヲ

運輸スルヲ目的トシテ建設サレタモノデゴザイマシテ、唯其餘力ヲ以テ一般

運輸ニ從事シテ居ルニ過ギナイノデアリマス、ソレ故ニ今日マデハ特ニ之ヲ

補助獎勵スル必要ガ起ラナカッタノデアリマス、然ニ最近ニ至リマシテ純然タ

ル公衆運輸ヲ目的トスル鐵道ノ企ガ所々ニ起リマシテ、既ニ短距離ノ鐵道デ

ハゴザイマスガ、昨年カラ開業シテ營業シツツアルモノモアルノデゴザイマ

ス、其外ニ將來ニ起ルベキ企、即チ既ニ出願ヲ致シテ居ルモノモ數件、又今

計畫シツツアルモノモ數件アルノデゴザイマス、是等ノ公衆鐵道ハ臺灣ノ交

通ノ政策上カラ申シマシテモ、又生産事業ヲ開發スル上カラ申シマシテモ、

緊要缺タベカラザルモノデアアルト認メルノデアリマスガ、是ニハ多少政府ヨ

リ補助獎勵スルダケノコトガナクテハ、健全ナル發達ヲ期シ難イノデアリマ

ス、現ニ内地、朝鮮、樺太等ニ於キマシテモ、既ニ私設鐵道ノ補助法ガ實行

サレテ居ル時代デアリマスルカラ、臺灣ニ於キマシテモ、斯ノ如キ法律ヲ以

テ私設鐵道ヲ補助シテ、而シテ一般ノ交通ナリ若クハ殖産ナリノコトニ付テ、

大ニ援助ヲ與ヘルト云フコトハ最モ必要ナ次第デアリマスルカラ、茲ニ此法

ヲ制定イタシタイノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切望イ

タシマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマ

ス

〔成瀬書記官朗讀〕

臺灣私設鐵道補助法案特別委員

子爵青木 信 光君 子爵新庄 直知君

平井 晴二郎君 男爵安場 末喜君

中村 純九郎君 西久保 弘道君

大島 健一君

男爵黑川 幹太郎君

平尾 喜三郎君

○議長(公爵德川家達君) 日程第六、銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律

案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正十一年三月十五日

衆議院議長 奥 繁三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案

關稅定率法別表輸入稅表中第四百六十四號及第四百七十一號ニ掲クル物品
ノ輸入税ハ當分ノ内同表ニ依ラス別表ニ依ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

品名	單位	稅率
銅		
一 塊及錠	每百斤	七・〇〇
二 條及竿	同	一五・〇〇
三 板	同	一六・二〇
四 線		
甲 金屬ヲ鍍セサルモノ		
イ 徑〇・五ミリメートルヲ超エサルモノ	同	一九・三〇
ロ 其ノ他	同	一五・七〇
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	同	二〇・四〇
五 撚合線	從價	三割
六 筒及管		
甲 金屬ヲ鍍セサルモノ	每百斤	二一・二〇
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	從價	三割
七 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	每百斤	七・〇〇
眞鍮及青銅		

一 塊及錠	同	七・〇〇
二 條及竿	同	
甲 スチームタービン用ノモノ	同	二一・〇〇
乙 其ノ他	同	一二・六〇
三 板	同	一二・八〇
四 線	同	一五・〇〇
五 筒及管		
甲 金屬ヲ鍍セサルモノ	同	一七・五〇
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	同	一九・五〇
六 箔	同	三八・三〇
七 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	同	七・〇〇

備考 從量稅率ノ單位ハ圓トス

〔國務大臣子爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(子爵高橋是清君) 本案ノ説明ヲ致シマス、銅ノ工業ハ古來本邦ノ重要産業デアリマシテ、戰前ニ於キマシテハ生産額ハ六七万噸ニ達シ、輸出額ハ四五万噸ニ達シタノデアリマス、此噸數ハ佛噸デアリマス、然ニ此戰時中銅ノ需要ガ激増ヲ致シマシテ、其形勢ニ促サレテ我國ノ此銅ノ産業ハ一段ノ進歩ヲ遂ゲマシテ、大正六年度ニ於キマシテハ生産額ガ十萬八千噸ニ上リ、其價格モ一億千八百萬圓ノ巨額ヲ産スルニ至リマシタ、然ニ戰後世界ニ於ケル銅ノ需要ハ俄ニ減退シマシテ、其結果ト致シマシテ、價額ノ下落モ甚シクアリマシテ、大正五六年ノ頃ニ百斤當リ七十餘圓ノ相場ヲ保ッテ居リマシタル電氣銅ハ、昨年中ハ四十圓内外ニ暴落ヲ致シマシタ、ソレガ爲ニ銅工業ノ經營ハ頓ル困難ニ陥ッタノデアリマス、斯ノ如キ時機ニ際シマシテ、銅工業ノ爲ニ一層不利ナル、不利益ナル事情ガ發生イタシタノデアリマス、即チ戰時中ニ生産ノ過剩ニ陥リ戰後ノ販路ガ俄ニ狹マツタル爲ニ、外國デ産出スル所ノ銅ガ、本邦ニ於テ産出スル銅ノ生産費ト較ベマシテ著シキ廉價ヲ以テ、續々我國ヘ外國ヨリ輸入セラレルヤウナ事實ヲ茲ニ見ルヤウニナッタノデアリマス、之ガ爲ニ本邦ノ銅工業ハ非常ナル窮境ニ陥リマシテ、至急之

ガ救済ノ途ヲ講ゼザルニ於テハ、我國ノ銅産業ノ衰滅ハ避クベカラザルコトニナツタヤウニ認メルノデアリマス、元來我國ニ於ケル銅工業ハ、本邦産業上重要ナルモノデアリマシテ、其産額ハ世界ニ於テ第二位ヲ占メテ居ルヤウナ次第デアリマス、若シ此際自然廢滅ニ歸スルヤウナコトニナリマスレバ、銅ノ供給ハ勿論併セテ其價格マデモ殆ド外國ノ爲ニ左右セラルルヤウナコトニナルノデアリマス、是等ノ點ヨリ見マスルコト云フト、銅ノ工業ハ單リ之ニ從事スル關係業者ノ休戚ニ關係スルノミトハ言ハレナイ、國家の産業問題トシテモ、最も重要ナルモノデアリマシテ、決シテ之ヲ等閑ニ付シ難イモノト信ズルノデアリマス、尤モ外國ノ銅ノ廉價輸入ハ大體ニ於テ、外國ニ於ケル滯貨ノ結果デアリマシテ、其間ニ限ルモノト考ヘマスルガ、ソレ故ニ當分ノ内一定ノ期間ダケハ、銅及ビ其合金タル眞鍮、青銅ニ限リマシテ、其稅率ヲ高メ、之ニ依テ本邦ノ銅ノ産業ヲ保護セムトスル趣意デゴザイマス、何卒御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ通告ニ依リマシテ發言ヲ許シマス、東郷男爵

〔男爵東郷安君演壇ニ登ル〕

○男爵東郷安君 世界ノ銅産國トシテ重要ナル地位ヲ占メテ居リマス本邦ノ産銅業、最近一兩年ノ中ニ俄ニ銅ノ輸入國トナツタト云フコトハ、本邦ノ産業ニ取リマシテハ、極メテ重大ナル事ト信ズルノデアリマス、重要ナル輸出國デアツタ我國ガ、何故約五百噸乃至六七萬噸ノ輸入ヲ必要トスルニ至ッタノデアリマセウカ、私ハ此點ニ付テ十分諸君ノ御考慮ヲ請ヒタイノデアリマス、而シテ何故ニ從來百斤一圓二十錢デアツタ稅率ヲ數倍加シテ、百斤七圓ノ稅率ニ急激ニ増加サレルノデアリマスカ、此數字的、經濟的、又國家社會ノ大局カラ見タ上、何故ニ斯ノ如ク稅率ノ加重ヲ必要トスルノデアリマスカ、此際私共ハ十分ナル攻究ヲ必要トスルノデアリマス、不幸ニシテ衆議院ニ於テハ極メテ匆卒ノ間ニ此重大ナル案件ガ通過シタデハアリマセウカ、本院ニ於キマシテハ縱令今日種々重大ナル議案ガ輻湊シテ居リマシテモ、此法案ニ付マシテ、諸君ニ於カレマシテ十分ナル御考慮アラムコトヲ、併セテ此際希望イタシテ置キマス、一體一國ノ産業ヲ保護シ助長スル必要、又其手段ハ種々アルノデアリマス、銅ヲ例ト致シテ見マシテモ、銅ヲ關稅ニ依テ保護スル前ニハ、尙ホ幾多ノ保護助長ノ手段ガアツタト思フノデアリマス、又ア

ルベキ筈デアリマス、私ハ第一ニ此點ニ付テ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、重要ナル輸出國デアツタ我が帝國ノ産銅業ヲ、何故ニ輸入防遏ノ爲ニ關稅ヲ引上ゲラルルノデアリマスカ、其ノ此ニ至リマスルマデニ於テハ、種々ノ方法手段ガ考ヘラレ、實行シタノデナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、政府ハ果シテ如何ナル手段方法ヲ御講ジニナツタノデアリマスカ、此點ニ付マシテ、暫ク本員ノ所見ヲ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、御承知ノ通り世界ニ於ケル産銅業ハ、世界大戰ノ影響ヲ受ケマシテ俄ニ其需要ヲ増加シ、之ニ付テ各主要産銅國ガ其設備ヲ増大イタシマシテ、其産額ノ莫大ナル數量ノ増加ヲ來シタコトハ御承知ノ通りデアリマス、我が帝國ニ於キマシテハ、其最も好適例ノ一ツデアリマス、然ニ一度休戦トナリマシテ、銅ノ需要ガ俄ニ激減イタシマシタ結果、是ガ需給關係ニ一大變態ヲ來シテ居ル、其價格ニ於テ非常ナル暴落ヲ來シ、倫敦、紐育、其市場市場ニ於テ相場ニ亂高下ガアツタノミナラズ、銅ノ相場ニ付マシテモ、非常ナル變動ガ起ツタノデアリマス、併ナガラ此銅ノ需給關係ト云フモノハ、大戰ト云フ非常ナ出來事ニ遭遇シテ居ル以上ハ、當然有リ得ベキ結果デアラウカト思フノデアリマス、軍需工業ガ非常ニ盛ナ時分ニハ、銅ノ需要ガ非常ニ多クナル、軍需工業ガ必要ガナクナツタ場合ニハ、銅ノ需要ガナクナツテ、其相場ガ下落スルト云フコトハ、當リ前ノ話デアリマス、當業者ニ於カレマシテモ、此當然ノ此大ナル需給關係ニ支配サレ、又之ニ對シテ相當ノ豫備ガアラネバナラヌト思ヒマス、我が帝國ノ産銅業者ハ、果シテ此大自然ノ法則ニ從ッテ行動シタノデアリマセウカ、暫ク私ハ茲ニ此ノ事實ヲ指摘シテ諸君ノ御清聴ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、大戰中ニ於キマシテ、我が産銅業者ハ爭ッテ其規模ヲ擴大シテ、其産出額ヲ多クシタノデアリマス、是レ固ヨリ需給關係上已ムヲ得ナイ所デアリマス、併ナガラ此場合ニ於キマシテ、彼等ハ果シテ正當ナル途ヲ執ツタノデアリマセウカ、本員ノ記憶イタシテ居リマスル所ニ依リマス、彼等ハ此非常ナル好景氣ノ場合ニ於キマシテ、無謀ナル所ノ擴張ヲ行ヒ、極メテ莫大ナル所ノ數量ノ銅ヲ無理ニ産出シタノデアリマス、ノミナラズ、此好景氣ニ乗ジテ産銅業者自身更ニ一種ノ投機ヲ行ツタノデアリマス、其以前ニ今一ツ申上ゲナケレバナラヌコトハ、此産銅業者ガ時ノ市場ノ好景氣ニ乗ジテ極メテ強硬ナル態度ヲ取ッテ需要者ニ向ッタノデアリマス、普通銅ノ加工品ハ月末ノ勘定デアアルニ拘ラズ、此製銅ノ塊、及ビ錠ノ引渡シハ倉庫ニ於テ直

接ニ現金ト取引ヲシテ、而モ往々ニシテ彼等ハ品不足ト稱シテ、市價ノ鈞上
ゲヲ畫シテ居ッタノデアリマス、左様ナ次第デアリマスルカラ、戰時中ニ於
ケル銅製產業者、銅業者ノ横暴ト云フコトハ天下悉ク認メテ居ッタノデアリ
マス、而シテ銅ノ需給ノ實際ニ於テ世界的ニ多少ノ變調ヲ來シタト見ルヤ、
彼等ハ產銅組合ト云フモノヲ組織イタシマシタ、是ハ大正八年六月デアリマ
ス、生産制限、價格協定、輸出促進、此三通リノ項目ニ向ッテ一種ノ組合ヲ
拵ヘタノデアリマス、是ハ當業者トシテ當然取ルベキ途デアラウト思フ
ノデアリマス、併ナガラ此取ル途ヲ彼等ガ果シテ取ッタカドウデアルカ、其
實蹟ニ付テ實際ニ攻究イタシテ見マスルナラバ、我々ハ實ニ意外ナコトヲ見
ルノデアリマス、先ヅ第一ニ生産制限デアリマス、彼等ノ最初ノ申合セニ於
キマシテハ、三割五分ノ生産制限ヲ申合セタニ拘ラズ、其後ノ農商務省ノ統
計其他ニ依テ種々調べテ見マスルト、彼等ハ生産制限ノ申合セヲ決シテ實行
イタシテ居ラナイ、統計ニ依リマスルト先ヅ大體一割五分乃至二割ノ制限ヲ
シタノミデアアル、三割五分ノ制限ト云フモノハ事實ニ行ハレナカッタノデア
ル、ソレカラ價格、協定デアアル、若シ之ガ維持サレタナラバマダシモデアリ
マスクレドモ、彼等當業者ハ互ニ軋轢ヲシテ、互ニ自己ノ功名ヲ得ルニ急デ
アッタ爲ニ、此價格協定ト云フモノガ遺憾ナガラ圓滿ニ行ヘナカッタノデアリ
マス、否或ルモノハ自カラ之ヲ破壊シタノデアリマス、現ニ昨年ノ春ノ市場
ニ於テハ、相當銅ノ餘剩ガアルト云フコトハ認メラレテ居ッタニ拘ラズ、相
場ハ依然トシテ下ラズ、甚ダ不自然ナル所ノ傾向ヲ示シテ居ッタノデアリマ
ス、彼等ハ之ニ依テ價格ノ鈞上ゲヲ畫シテ居ッタ一派ガアルト同時ニ、又彼
等ノ中ニハソレハ餘リヒドイ、矢張安値ニシテ置カナケレバ米國ノ銅ニ壓倒
サレルノデアアルト云フ二ツノ論ガアッタノデアリマス、即チ此產銅組合ノ過
去ノ沿革ニ徴シテ見マスルト云フト、如何ニモ彼等ハ小策ヲ弄シテ居ッタ、如
何ニモ市場ヲ攪亂シテ居ッタ、如何ニモ需給關係ノ經濟關係ヲ無視シテ居ッタ
ノデアリマス、斯ノ如ク前年ノ產銅組合即チ今日ノ水曜會ナルモノハ、彼等
自身自カラ進ンデ自分ノナスベキコトヲナサズ、又自カラ一面ニ於テハ亞米
利加ノ銅ヲ買付ケテ、日本ノ需給關係ニ付テ今日ノヤウナ極メテ憂慮スベキ
狀態ニ陥レタノデアリマス、此ノコトヲモウ少シ精シク申上ゲマスナラバ、
當時内地ノ銅ノ市場ヨリ致シマシテ、亞米利加ノ銅ガ割合ニ安ク内地ニ輸入
スルコトガ出來ルト云フ狀況デアリマシタカラシテ、銅業者竝ニ輸入業者ハ

此輸入ニ付テ相當計畫ヲ致シタノデアリマスルガ、驕ッテ考ヘテ見マスルナ
ラバ、我國ハ產銅國デアアル以上ハ此輸入ヲスルト云フコトハ甚ダ面白クナ
イ、ノミナラズ需給關係ヲ亂スカラシテ、是ハ銅ノ生産業者モ、銅ノ輸入業
者モ御互ニ協定シテ居ッタナラバ、相當内地ノ需給關係ヲ維持スルコトガ出
來テ、價格ノ暴落ヲ防グコトガ出來ルデハナカラウカト云フ相談ガアッタニ
拘ラズ、彼等ハ產銅業者デアアルニモ拘ラズ、種々ナ形ニ於テ即チ或モノハ商
事會社ヲ起シ、或モノハ何々組合ヲ起シテ、銅ノ買付ケヲ致シマシタ、其爲
ニ巨大ナル所ノ銅ガ輸入サレタノデアリマス、之ガ抑モ今日ノ内地ニ於ケル
所ノ銅ノ暴落原因デアリマス、彼等ガ救済ヲ呼ブニ至ッタノハ即チ此點デア
ルノデアリマス、然ラバ我々國民ハ彼等ノ投機思惑ノ失敗、竝ニ彼等自身自
カラ救フコトヲナサズシテ今日ノ事態ニ陥ッタ結果ニ對シテ、國民一般ガ何
故ニ此負擔ヲ負ハナケレバナラスノデアリマセウカ、此點ニ付テハ我々極
メテ不可能ナ事態デアルト思フノデアリマス、又政府ニ於ケレマシテハ何故
ニ關稅ノ加重ヲセラルル前ニ、相當當業者ノ救済ニ向ッテ考慮ヲセラレナカッ
タノデアリマス、私ハ之ニ付テ種々ナ方法ガアラウト思フノデアリマス、
一例ヲ申上ゲマスナラバ、昨年ノ二月ニ當時亞米利加ノ銅ノ相場ガ著々下落
イタシマシテ、既ニ十二仙臺ニ陥ッタ時ニ當リマシテ、亞米利加ニ於テハ、製
銅輸出協會ト云フモノヲ拵ヘテ、「ナシヨナルシチーカンパニー」「ガラシテ
イーラストカンパニー」其他ガ寄リマシテ、約二十万噸ノ製銅ヲ引當ニ四千
万弗ノ手形ノ保證ヲ與ヘタノデアリマス、之ガ最モ大膽ナ、最モ適確ナル所
ノ救済策デアリマシテ、幾分之ニ依テ當業者ハ息ヲツイタノデアリマス、是
ハ亞米利加ノ經濟界ニ於ケル特殊ノ事象デアリマセウケレドモ、之ニ似タヤ
ウナ仕事ニ付テ如何ナル御考慮ガアッタノデアリマセウカ、勿論製銅組合ニ
對シテ、日銀ガ一千万圓ノ融通ヲセラレタコトハ存ジテ居リマスルガ、其以
後ノ經過ニ付テ何故ニ斯ノ如キ方法、若クハ種々ナ他ノ手段ヲ講セラレナカッ
タノデアリマセウカ、私ノ種々ナ他ノ方法ト申シマスルノハ、今日日本ノ銅
ノ礦石ハ、亞米利加ニ比ベマシテ甚ダ貧弱デアアルト云フヤウナコトヲ當業者
ハ訴ヘテ居リマス、是ハ開關以來當然極々コトデアアル、而シテ此貧弱ナル
礦石ヲ製鍊シ、若クハ之ヲ輸送スルニ當リマシテ、企業ノ集中合同ト云フヤ
ウナコトガ、生産費ノ低下ニ最モ必要ナル所以デアアル以上ハ、何故ニ當局ハ
之ニ向ッテ相當ナ助力ヲ講セラレナカッタカ、勿論彼等ノ多クハ極メテ大ナル

資本ヲ擁シ、大ナル組織ヲ以テ今日マデ經營イタシテ居タノデアリマスカラ、或ハ面目上之ニ對シテ十分ナ協議ニ應ズルコトガ出來ナカッタカモ知レマセスガ、是ハ日本ノ銅ノ生産費、即チ日本ニ於テ銅ヲ輸出スルカ、輸入スルカト云フ極メテ重要ナル事實ニ對シマシテハ、私ハ大ニ政府トシテ考慮ト、之ニ對シテ相當ノ周旋ヲセラルルノガ當然デハナカラウカト思フ、然ニ徒ニ當業者ノ利己的ノ計算、自我的ノ執着ニノミ委セテ置イテ、銅ノ工業ト云フモノガ振ハナクナッタ今日ニ至テ、俄ニ關稅ヲ御掛ケニナルト云フコトハ如何ナモノデアリマセウカ、度々申上デマシタル如クニ、當業者ガ自身ガナスベキコトヲナサズ、政府自身モナスベキ方法ハ多クアルニ拘ラズ、此關稅ニ向ッテ我々國民一般ニ負擔ヲ掛ケラレルト云フコトハ、極メデ心得ナイ次第ト思フノデアリマス、此點ニ付テ政府ノ明快ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、尙ホ亞米利加ノ銅ガ今日我國ノ銅ノ値段ヲ壓迫シテ居ルト云フコトハ隠レモナイ事實デアリマス、亞米利加ノ銅ノ生産額及ビ今日マデノ滯銅額ト其相場ト比ベテ見マスルナラバ、當然私ハ亞米利加ノ銅ハ十三仙臺若クハ十四仙ニ至ル間ヲ往來スルニ過ギナイノデアラウト思フ、然ラバ此銅ノ本邦ニ著シマス値段ハ、矢張今日ノ如ク四十圓乃至四十一二圓ニ止マルデアラウト思フ、斯ノ如キ次第デアリマス、然ラバ我國ニ於ケル所ノ產銅業者ガ此低價ナル生産費、此低價ナル相場ニ對抗シ得ル見込ガアルカドウカ、少ナクモ今度七圓ニ引上ゲタ關稅ニ依テ是等ノ製銅業者ガ保護助長セラルル趣ガ期待セラるルヤ否ヤト云フコトガ、私ハ又當然考ヘナケレバナラヌ問題デアラウト思フ、併ナガラ是ハ私ハ戰爭前カラノ事象ト思ヒマスガ、到底日本ノ銅礦業ハ、亞米利加ノ大規模ニシテ豐富ナル品質ノ良イ礦石ヲ有シ、其他機械的設備ノ完備シテ居ル銅山ヲ經營シテ居ル、之ガ產出品ニ對シテハ、到底太刀打ノ出來ナイ狀態ニアッタデハナカラウカト思フ、斯ノ如キ到底引合フ見込ノナイ産業ニ對シテ、假令一時タリトモ之ヲ關稅ヲ以テ保護スルト云フコトハ果シテ如何デアリマセウ、是ハ總テノ産業界ノ全般ニ互ッテ考ヘテ見マスレバ、餘程考慮ヲ要サナケレバナラヌ問題デアラウト思フノデアリマス、只一時ノ保護一時ノ苟安ヲ貪ッテ、國家永遠ニ互ル所ノ産業ノ基礎ヲ破壞スルヤウナコトハ、極メテ由々シキ大事デアラウト思フノデアリマス、若シ銅業者ガ今回ノ如キ過重ナル關稅ニ依テ保護セラルルニアラズンバ、到底内地ニ於テ存立スルコトガ出來ナイ、多數ノ礦山ハ既ニ大部分ハ閉鎖シテ居リマスルケレド

モ、今後モ尙ホ引續イテ閉鎖スルニ至テ、或ハ日本ニ於ケル所ノ銅山ノ事業ハ全廢ニ至ルカモ知レスト云フコトデアリマスレバ……只今大藏大臣ノ御説明ノ中ニモ其點ニ觸レラレタト思ヒマス、而シテ彼等ハ尙ホ言葉ヲ繼イデ申スニ、此銅山ト云フモノハ長イ歴史ヲ持ッテ居ル、澤山ノ勞働者ノ從事シテ居ル所ノ大ナル企業ノ一ツデアアル、各主要銅山ニ働イテ居ル所ノ十萬ノ勞働者ノ失業問題ヲ如何ニシテ呉レルカ、斯ウ言ッテ我々ヲ脅カス、是ハ一應尤モニ聞エルノデアリマス、勞働問題失業問題ノヤカマシイ時代ニ當ッテ、殊ニ斯ウ纏ッタ失業問題ノ如キハ相當ニ耳ヲ傾ケルニ足ルノデアリマスガ、私ハ只今はハ盾ノ一面デアルト思フ、盾ノ半面ヲ何故ニ見ナイノデアリマスガ、銅ガ今度ノ關稅ニ依テ内地ニ於ケル相場ガ高クナルト、之ヲ使用スルコトガ困難ニナリマシタナラバ、銅ヲ加工スル業務ニ從事シテ居ル者ハ、如何ナル事態ニナルデアリマセウカ、銅ノ加工業ト申シマスレバ、伸銅所其他各種ノ銅ヲ加工スル者ガ多ク有ルノデアリマス、而シテ之ニ從事スル勞働者ハ多クアルノデアリマス、勿論都會ニ集團ヲ爲シテ都會ニ働イテ居ル者モアリマスガ、彼等ノ多クハ中産階級ノ資本家デ、極メテ小規模ナ家内工業ノ形式ニ於テ働イテ居ルノデアリマス、即チ一定銅ノ加工業ト云フモノガ不振ニ陥リマスレバ、彼等ノ職業ハ縮メラレテ、玆ニモ亦失業問題ガ起ルノデアリマス、而シテ彼等ハ熟練職工デアリマス、都會ニ永年定住シテ居ル職工デアリマス、是等ノ者ガ銅ノ加工業ノ不振廢業ニ依リマシテ職ヲ失ッタナラバ如何デアリマセウカ、彼等ノ轉業ト云フコトハ頗ル困難デアリマス、之ヲ鑛山ニ働イテ居リマスル勞働者ニ比ベマシテ……マダ鑛山ニ働イテ居ル勞働者ノ方ガ、轉業スルニ付テ、即チ歸農スルコトノ可能性ヲ帶ビテ居ルニ拘ラズ、長ク都會ニ定著シテ居ル所ノ銅工業ノ、多數ノ勞働者ノ失業者ト云フモノガ轉業スルニ付テハ頗ル困難デアアル、勿論歸農スルコトハ出來ナイ、此兩方ヲ比ベテ見ルナラバ如何デアリマセウ、此銅山ノ失業者ガ何万人アルト云フコトニ依テ、ソレニ脅カサレルコトハナイ、我々ハ盾ノ半面デアアル所ノ銅加工業ニ働イテ居ル所ノ、更ニ多數ノ熟練職工ニ付テ、當然考慮ヲ及ボサナケレバナラヌト思フ、從テ此點ニ付テハ私ハ決シテ此關稅保護ヲ支持スル重要ナ點ニハナラヌト思フノデアリマスガ、農商務當局ハ勞働者問題ニ對シテ、廣ク國家全般ニ互ッテ御覽ニナッテ、此問題ヲ如何ニ御考ヘニナリマスガ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ關稅ノ過去ノ沿革ニ涉リマシテ、少ナクモ最

近兩三年ノ沿革ニ付マシテ、私ハ茲ニ一言費シタイト考ヘルノデアリマス、現内閣成立以來戰後經營ノ一手段ト稱シテ、先づ第一ニ染料ノ保護ヲナサレ、藥品、亞鉛、更ニ最近ニハ鐵ノ保護ヲナサレタノデアリマス、而シテ兩院共之ニ對シテ協賛ヲ與ヘラレタノデアリマス、而シテ是等ノ物ガ今日如何ナル狀態ニアリマスカ、果シテ政府ガ所期セラレタ所ノ目的ガ叶ッタカドウデアルカ、染料ハ如何デアリマスカ、當時私ハ染料ノ保護ト云フモノハ餘程困難ナモノデアアル、内地ニ於ケル所ノ染料ノ工業ハ餘程注意ヲ爲サラナケレバナラスダラウト思フ、所謂英吉利ニ行ハレテ居ル所ノ特殊染料ノ特殊保護ト云フコトナラバ、私共承認スルコトガ出來ルガ、一般ニ互ツテノ染料工業ト云フモノハ到底保護スルコトガ出來ヌト言ッタノデアリマスガ、今日ノ狀態ハ果シテ如何ナルモノデアリマスカ、今日日本ノ染料會社ハ支持ニ困ツテ居ルト云フヤウナ有様デアアル、政府ハ果シテ將來日本ノ染料工業ガ獨逸ニ對抗シテ、世界ニ雄飛スルコトガ出來ルト云フ御見込デアアルカ、即チ是ガ關稅ニ依テ完全ニ保護サレルト思フノデアリマスカ、此點ヲ伺ヒタイ、亞鉛ハ如何デアリマスカ、當時關稅ノ制定セラレマスニ當リマシテ、日本ニ約三ツノ大キナ工場ガ殘存シテ居ッタ、而シテ其製產額ガ日本ノ亞鉛ノ約七割ヲ占メテ居ッタニモ拘リマセズ、今日ハモウ二ツノ大キナ工場ハ閉鎖シテシマツテ、亞米利加カラドンデン亞鉛ガ這入ッテ來ルノデアリマス、之ヲ以テモ關稅デ亞鉛ヲ保護スルト云フ政府ノ所期ノ目的ガ達シテ居ナイト云フコトハ明カデアアル、藥品ハ如何デアリマスカ、更ニ鐵ノ如キハ如何デアリマスカ、是ハ特ニ私ガ申上ゲズトモ、最モ顯著ナル失敗ノ事實ガ諸君ノ眼前ニ展開サレテ居ルト思フノデアリマス、假令鐵ノ關稅ヲ上ゲマシテモ、到底保護ノ目的ヲ全ウスルコトハ出來ナイト云フコトヲ私ガ極言シタニ拘ラズ、政府ハ昨年ノ議會ノ終リニ遮二無二此案ヲ通過ヲ望マレタノデアリマスガ、今日鐵ノ保護ハ如何デアリマスカ、何等保護ノ實ハ舉ガツテ居ナイ、唯國民ニ高イ鐵ヲ使用サスト云フニ過ぎナイ、ソレダケ日本ノ鐵工業ハ外國ニ對シテ「ハインドキヤツプ」ヲ持ッテ居ルノデアリマス、今日マデノ是等ノ數品ニ對スル關稅ノ沿革ハサウ云フ沿革デアアル、サウ云フ歴史ヲ持ッテ居ルノニ、又シテモ茲ニ銅ヲ御出シニナルト云フノハ如何ナル譯デアリマスカ、私ハ一般ノ者ニ高イ銅ヲ使ハシテ僅ニ少數ノ銅山ノ持主ヲ保護セラレテモ、之ニ依テ生ズル所ノ損害ハ國家のニ非常ニ莫大ナルモノデアルト思フ、一例ヲ以テ申上マスレバ銅ノ

最モ大ナル需要者ハ電氣事業者デアリマス、今日我國ニ於キマシテ、水力電氣事業ガ動力ノ經濟ノ上ニ於テ最モ其速成ヲ要スル時ニ當リマシテ、銅ノ線條ヲ必要トスル工業ニ向ヒマシテ、此銅ガ上ルノハ一大打撃ヲ與ヘル結果トナルト云フコトハ見易キ道理デアリマス、即チ諸君ガ承知セラルル如ク電氣ノ動力ト云フモノガソレダケ値段ガ上ルノデアリマス、國家ノ産業ノ根本デアル所ノ此動力ニ向ッテ一大脅威ヲ齎ス所ノ銅ノ關稅ト云フモノハ、果シテ我々ガ默ツテ之ヲ通過スルコトガ出來マセウカ、是ハ國家ノ産業ニ取ッテ重大ナル影響ガアルノデアリマスカラ、諸君ニ於カレマシテモ、此方面ニ於テモ十分ニ此法案ニ付テ御考ヘニナラナケレバナラヌト思フノデアリマス、尙ホ大體ニ付マシテハ更ニ澤山ノ質問ガアリマスルカラ、此位ニ止メマシテ法案ノ本文ニ付テ、更ニ御尋ネヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、法案ノ本文ノ中ニ此銅ノ關稅ヲ引上ゲルコトハ當分ノ中之ヲ實施スルト云フコトガ書イテアルノデアリマス、當分ノ中ト云フノハ一體如何ナル意味デアリマセウカ、之ヲ法律ノ前例ニ照シテ見マスルト、此文字ガ必シモ我々ガ文字ノ表面デ想像スル當分ノ中デハナイノデアリマス、一ニノ例ヲ申上ゲテ見マスレバ、內務省令「ベスト」豫防ノ爲ニ檻樓ノ輸入禁止ヲスル法令ガアリマス、是ハ矢張當分ノ中ト云フ字ガ用キテアル、既ニ明治三十二年四月ヨリ今日ニ至ル迄尙ホ引續キ施行セラレテ居ルノデアリマス、又明治三十三年勅令第二百九十四號ノ馬匹ノ輸出禁止ニ關スル件、此中ニモ當分ト云フ文字ガ用キテアルノデアリマス、當分ト云フノハ何十年カノ先ノコトマデモ當分ト云フ意味デアアルノデアリマス、私ハ此點ニ付テ諸君ガ此文字通り御解シニナラヌコトヲ御注意申上ゲテ置キマス、先程申上ゲマシタ通り我國ニ於ケル銅ノ製產費ハ、到底亞米利加ノ銅ノ製產費ニ叶ハナイ、到底引合ハナイト云フ事實ガ明カデアアル以上ハ、此當分ト云フ意味ガ永遠ト云フ意味ト解釋シテ差支ナイノデアアルカ是ハ私極メテ疑ヲ有スルノデアリマス、又實質的ニ申上ゲマシテモ、亞米利加ニ於ケル今日ノ強大ナル滯銅ガ我國ノ銅ノ相場ノ壓迫ヲナシテ居ル以上ハ、此「ストック」ガ減ジテ價格ガ騰貴シタナラバ、從テ我國ノ銅モ騰貴スルノデアリマスカラ、其時ヲ以テ當分ノ中ト云フモノノ締切リヲ付ケルノカ、句切りヲ付ケルノカ、或ハ又内地ニ於ケル滯銅ガ最近ニ於テ約一萬噸バカリアルヤウデアリマスガ、是等ガ併セテ消費サレテ亞米利加ノ値段ガ十四仙以上ニ恢復サレタ場合ニ於テ、此當分ト云フノヲ撤廢サレルノデア

リマスカ、法律的二申シテモ事實ノ上カラ申シテモ又當業者自體ノ業態ガドノ程度ニ立至ッタナラバ、當分ノ間ト云フノガ限ラレルノデアリマスカ、是等ハ能ク玩味シテ見マスルト極メテ不可解ナ文字デアリマス、私ハ將來實際間ニ種々ノ疑惑ヲ生ジ投機思惑ノ素因トナルモノデアルト思フ、即チ一圓二十錢ノ税率ヲ七圓ニ引上ゲルト云フコトハ過重デアル、世間體誠ニ困ル、如何ニモ銅ノ營業者バカリヲ保護シ大資本ヲ有スル所ノ銅山業者ノミヲ保護スル法案デアルカラ、先ヅ當分ノ中ト云フ文字ヲ入レタナラバ、之ヲ以テ多少ノ辯解釋明ノ材料ニナルダラウ、斯ウ云フヤウナ卑屈ナ御考デハナカラウカト想像スルノデアリマス、併ナガラ之ニ付テハ、慎ンデ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ税率ノ點、稍、細カクナリマスケレドモ、暫ク御靜聽ヲ煩ハシタイト思ヒマスルノハ、眞鍮及ビ青銅ニ對スル税率デアリマス、眞鍮ハ御承知ノ通り銅ガ六割、亞鉛ガ四割、斯ウ云フヤウナ割合ノ合金デアリマス、前段ニ於キマシテ銅ノ塊及錠ニ七圓ノ税金ヲ掛ケテ居ラレルノヲ其儘移シテ、眞鍮ニ七圓ノ税金ヲ課スルト云フコトハ、是ハ計數ノ上ニ於テ甚シキ違算デハナイカト思フ、即チ銅ガ六十「パーセント」ナラバソレガ百斤七圓ノ税率ニ割當テマスルト四圓二十錢、ソレカラ亞鉛ノ方ハ百斤三圓ノ税率デ一圓二十錢デアリマス、合計シテ五圓四十錢デナケレバナラスモノヲ何故ニ七圓トナサルノデアリマスカ、是ハ多少加工費ガ加ハリマシテモ七圓ニハナラス、青銅ニ於キマシテモ同ジ理窟デアリマス、即チ青銅ハ銅ガ八十「パーセント」、錫ガ二十「パーセント」、之ヲ各、税率ニ引當テマスルト其合計ガ五圓五十錢ニナル、之ヲ七圓トシテ御計上ニナッタノハ何故デアリマスカ、之ニ付テハ違算ガアルノデハナカラウカト思フノデアリマス、尙ホ次ニ銅及ビ眞鍮青銅ヲ通ジマシテ、屑及ビ「フル」ニ對シテ今日迄ハ無稅デアッタモノガ、一躍百斤七圓ノ税率ヲ課徴サレルコトニナッタノハ、一體ドウ云フ次第デアリマセウカ、先ヅ數字ニ付テ私ノ疑ノ存シテ居リマスノハ、屑並ニ「フル」デアリマスカラシテ、當然「ロス」ガ出來ルモノト見ナケレバナラス、又當然加工費ガ要ルモノトシナケレバナラス、是ハ専門家ノ云フ所ニ據ルト七十「パーセント」乃至八十「パーセント」シカ純分トシテ使ヘナイ、二十「パーセント」乃至三十「パーセント」ハ之ヲ控除シナケレバナラスノデアリマスカラ、サウ云フヤウナ計算ニ致シマス此七圓ト云フモノハ、又違算デハナカラウカ、ノミナラズ此屑及ビ「フル」ト云フモノガ從來無稅デアリマシタガ故ニ、大戰ノ

際ニ歐洲交戰國ニ於キマシテ多量ニ使用サレマシテ其後不用ニ歸シマシタ所ノ屑及ビ「フル」ガ我國ニ輸入サレマシテ、我國ニ於テ之ガ加工サレマシテ、之ヲ印度南洋ノ方面其他ニ販路ヲ求メタ次第デアリマシテ、新タニ今之ヲ七圓ニ課徴サレタナラバ、是等ノ輸出業者ト云フモノハ全減ニ歸スルノデアリマス、是ハ抑モ如何ナル次第デアリマスカ、内地ニ於テ我々ガ高イ銅ノ消費ヲ餘儀ナクサレルノミナラズ、輸出ニ於テモ殆ド全減ニ歸スルヤウナ事態ニナルコトハ、是亦極メテ重大ナル變革デハナカラウカト思フノデアリマス、尙ホ最後ニ御尋ネイタイノハ、銅ヲ多量ニ使用シマス所ノ發電機ニ關スル税率ヲ何故ニ閑却ナサッタト云フコトデアリマス、「ダイナモ」モートルノ類ハ、安キ銅ヲ多量ニ使用スレバコン、内地ニ於テ相當業態ガ成立シテ居ルノデアリマス、然ニ内地ニ於ケル所ノ銅ガ騰貴シタナラバ、動モスルト關稅ノ増壁ヲ飛越シテ來ヤウトシテ居ル外國ノ製品ニ對抗スルコトガ頗ル困難デアルノデアリマス、此點ニ付テ當局ハ何故ニ考慮セラレナカッタノデアラウカ、此點モ私ハ伺ヒタイノデアリマス、之ヲ要シマスルニ我國ノ銅工業ノ趨勢ハ到底今日ニ於テハ亞米利加ノ大勢ニ逆抗スルコトハ出來ナイノデアリマス、ノミナラズ國防上カラ申シマシテモ安キ銅ヲ此機會ニ於テ多量ニ内地ニ種々ナル方面ニ使用シ、他日ノ貯蓄ニモ資スルコトガ出來ルナラバ、是ハ極メテ重要ナル有利ナル點デナカラウカト私ハ考ヘルノデアリマス、例ヲ申上ゲマスレバ世界大戰中、獨逸ガ軍需品ノ中、銅ニ付テハ非常ナル困難ヲ嘗メテ、國內ノ有ラユル銅ノ附著シテ居ル物資ヲ總テ提供セシメテ、是デ補ヒヲ著ケタト云フ顯著ナル事實ガアリマシタコトハ、諸君ガ御承知ノ通りデアリマス、然ラバ我國ノ銅ノ供給ニ將來憂慮スベキ點モアリ、又將來假ニ戰爭ガアリトスレバ、銅ノ消費ノ大ナルコトヲ豫想サレルノデアリマスカラ、我我ハ國防上ノ見地カラ申シマシテモ、或ハ安イ時ニ於テ多量ノ銅ヲ外國カラ輸入シテ置クト云フコトハ、此國防上ノ方面カラ申シマシテモ、必要ナルコトデアリマス、矧シテ況ヤ此安イ銅ノ原料ヲ輸入シテ加工スル外國ノモノニ動モスルト壓倒サレル危險モアル、之ニ向ッテ極力政府トシテハ後援サレル必要ガアルト思フノデアリマス、斯ノ如ク種々考ヘテ見マスレバ私ハ今日政府ガ一部ノ生産業者ノ聲ノミヲ聞イテ一般ノ消費者ノ聲ヲ輕ンゼラレルト云フコトハ、如何ニモ懸念ニ耐ヘナイノデアリマス、而モ彼等生産業者ガ爲スベキ方法ト、爲スベキ手段トヲ完全ニ努メテ、茲ニ百計盡キテ救ヒヲ國民ニ

求メルナラバ、我々ハ之ニ對シテ尙ホ耳ヲ傾ケルノデアリマスガ、彼等ガ爲スベキコトヲセズ、放漫ナル投機思惑ノ結果爲シタル違算ヲ、我々國民ノ全般ノ頭ノ上ニ被セルト云フコトハ何トシテモ、私ハ之ニ對シテ大ナル疑問ヲ持タナケレバナラヌト思フデアリマス、是等ノ諸點ニ付テ、此際政府ヨリ明快ナル御答辯アラムコトヲ希望イタシマス

〔政府委員田中隆三君演壇ニ登ル〕

○政府委員(田中隆三君) 御答申上ゲマスガ、御尋ノコトハ随分多クノ事項ニ互ツテ居リマスルヤウデゴザイマスルケレドモ、先ヅ大體ニ於テ其各事項ニ關スル根本問題トシテ御了承ヲ願ハナケレバナラヌコトガアリマス、其コトガ御解リニナリマスナラバ、唯今ノ御疑念ノ大部分ハ解キ得ルコトト私ハ信ジマス、其コトハ現ニ大藏大臣ヨリモ御話ノ中ニゴザイマシタガ、我國ノ銅鑛山業ト云フモノハ非常ニ古キ歴史ヲ以テ相當ノ順序經歷ヲ經テ、今日ノ進歩發達ヲ見タノデアリマス、外ノ産業ノヤウニ、其時ノ特殊ノ事情ニ觸レテ急ニ頭ヲ上ゲテ來タトカ、伸ビテ來タトカ云フモノデアリマセヌノデ、政府ノ指導ト當業者ノ努力ニ依リマシテ、相當ナル順序方法、自然ノ道行ヲ辿ッテ今日ノ進歩發達ヲ見タ譯デアリマス、其爲ニ我國ハ世界ノ銅產國トシテ、最初ニハ四番目五番目等ノ地位ニアッタコトモアリマスルケレドモ、漸次進んで今日ハ亞米利加ニ次グ所ノ第二等國トシテ相當ノ名譽ヲ有ッテ居ル譯デアリマス、又此銅業ガ我國ニ於テ發達イタシマシタ結果、國民ハ數十年ニ互ツテ、我國ニ銅ガ產出ニナツテ以來今日ニ至ルマデ、多クノ恩恵ニ浴シテ居ルノデアリマス、ソレハドウ云フコトデアアルカト申シマス、日本ノ銅ハ日本人ガ日本ニ於テ使用スル銅ノ價格ハ、世界ノ相場ヨリ安ウゴザイマス、銅ノ價格ガ倫敦ノ相場ニ於テ世界ノ價格ハ定マルノデ、倫敦デ一噸六十磅スルト云フ時ニハ、日本ニ於テ銅ハ幾ラカト云フト、直グニ大體ノ算盤出ルノデアリマス、一噸ヲ百斤ニ直スニハ六ヲ掛ケル、スルト六十磅ハ、六々三十六圓ト云フ數字ヲ生ミ出スノデアリマス、ソレカラ二圓五十錢乃至三圓引クノデアリマス、即チ三十三圓ガ日本ノ相場デ以テ賣買取引ヲサレルノデアリマデ、其二圓五十錢乃至三圓ト云フモノハ何カト云フト、日本カラ歐羅巴マデ銅ヲ輸出シテ參リマス所ノ運賃、手数料、保險料ヲ……外國ニ輸出スルニハソコマデ持ッテ行ッテ、倫敦ノ相場ト同ジ値段ニ釣合フヤウニ致シマセヌケレバ、輸出ハ出來マセヌデアリマスカラ、所謂日本ノ銅ト云フモノハ、日

本ニ於テ倫敦ノ相場ヨリ二圓五十錢乃至三圓安クシテ、御互ガ直接間接ニ其銅ヲ使用スル結果、恩恵ニ浴シテ居ル譯デアリマス、ソレハ前申上ゲマス通り、何十年以來少シモ變リナク、サウ云フ事情ニ進ミツ、アッタノデアリマス、是ハ茲ニチヨット統計ヲ持ッテ居リマスガ、誠ニ產出ノ狀況カラ申シマスルト、明治十年ニハ我國ノ產出額ガ三千九百噸シカナカッタ、僅ニ四千噸ニ足ラナカッタデアリマス、ソレガ十年經ッテ二十年ニ至ッテ一萬一千噸トナリ、明治三十年ニハ二萬噸トナリ、ソレカラ二萬一千噸、二萬四千噸、二萬七千噸、二萬九千噸、三萬噸ト云フヤウナ風ニ段々殖エマシテ、是ハ一時戰ノ爲デモゴザイマセウケレドモ、詰リ十萬噸以上ニモ大戰ノ際ニハ上ツタ譯デアリマス、併シ此十萬噸ト云フヤウナ數字ハ、サウ云フ特殊ノ事情ニ依テ起ッタノデハゴザイマセウケレドモ、兎モ角モサウ云フ特別ノ事情ヲ除イテ、皆ナ相當ノ順序ヲ經テ、本當ニ是ハ進歩發達シタノデアリマス、變則デナイ、原則的ニ出來テ居ル、又此産業ノ結果唯今申上ゲマスル通り、國民モ非常ニ其恩恵ニ浴シテ居ルノデアリマス、是ハ世界ノ事情ニ特殊ノ變化ナクシテ、今日ノ如キ經濟時代ガ恢復イタシマスレバ、即チ其元ノ自然ノ順序ニ立戻ッテ、矢張國民ガ此安イ銅ヲ使フコトガ出來ルヤウニナルト云フコトヲ私共ニ於テハ確信イタシテ居リマス、又サウ云フコトデナケレバ、實ニ是ハ國家ノ爲メ容易ナラヌコトデアアルト私ハ思フノデアアル、其根本ニ付テハ十分東郷男爵ニ於カレマシラモ御諒承ヲ願ヒタイト思フ、段々御話ノ中ニ、或ハ染料ノコト、亞鉛ノコト等ヲ御引キニナツテ、彼是比較シテノ御論モゴザイマシタガ、兎ニモ角ニモサウ云フ新シク出來タ仕事、或ハ經驗ノ乏シイ仕事、又急ナル或ル事情ニ依テ伸ビタトカ、發達シタトカ云フヤウナモノトハ違フノデ、歴史アリ根柢ノアル順序ヲ經テ、何等波瀾ナシニ斯ノ如キ進歩發達ヲ來シタ仕事デアルト云フコトダケハ、先ヅ冒頭ニ御念頭ニ置イテ戴キタイト思フノデアリマス、ソレカラ兩三年前ニ銅工業者間ニ不心得ノモノガアツテ輸入等ヲ企テマシテ、色々不都合ヲ働イタト云フ御話デアアル、サウ云フヤウナ事實ハ私共モ承ッテ居リマス、併ナガラソレ等ノ人ハ所謂銅生產者デナクシテ、所謂商賣人……商賣人ノ資格ニ於テ輸入ヲ企テ、結局企テタモノガ制裁ヲ受ケテ多額ノ損失ヲ招イタ、其損失シタ、損失業者ニ對シテ、此度ノ法案ハ何等ノ關係ヲ持タヌノデアリマス、尤モ其商賣人ノ中ニ、一面ニ於テ商賣人デアリ、他ノ一面ニ於テ生產業者デアルト云フ顔振レモ見受ケマス、見受ケマス

ケレドモ、所謂其問題が起ツテ、サウ云フ事情ノ爲ニ、困難ニ陥ッタト云フヤ
ウナ時ニ、既ニ此ノ或程度ノ救済論ナドモ出マシタケレドモ、ソレハ寧ロ當
局ヨリモ戒メマシテ、深く將來ヲ戒メルヤウナコトニ致シマシテ、サウ云フ
問題ニ付テハ、當局ハ餘リ此方ニハ觸レテ居リマセヌ、而シテ其結果ハドウ
カト云フト、詰リソレダケノ損失ヲ受ケタト云フコトニナリマス、唯併ナガ
ラ、其結果カラ見マシテ唯今御話ノ如ク、又私共モ現ニ警告ヲ與ヘマシタ如
ク、其當時ニ於テ甚ダ面白クナカッタハ思ヒマスケレドモ、他ノ一面カラ
申シマスルト、甲ナルモノガ亞米利加ノ銅ガ安イカラ、輸入ヲ企テタト云フ
コト、其甲ナルモノノ企テツ、アルコトヲ知ラズ、乙モ企テ又丙モ企テタ、
サウシテ蓋ヲ明ケテ見ルト云フト、互ニ我國ニ於テ必要以上ノ銅ガ輸入セラ
レタト云フ結果ガ現レテ、相互ニ非常ニ損失ヲ蒙ラナケレバナラスト云フ事
態ガ起ツタト云フ譯ニナル、後カラ申シテ不都合ダト云ヘバ不都合カ知レマ
セヌガ、其事態ノ起ツタ現状ハサウ云フ譯デアル、輸入スルモノハ結局儲ケ
ヤウトシテ輸入スルノデアリマスカラ、サウ云フ風ニ必要以上ノモノヲ、澤
山ニ輸入ヲ企テツアルト云フコトガ分ツテ居リマスレバ、サウ云フコトヲ
スル筈ガナイ、知ラズシテサウ云フ失敗ヲ招イタト云フコトハ商業上ノ失策
デアル、ソレ等ノ人ニハ誠ニ御氣ノ毒ナコトデアリマス、併ナガラ他ノ一面
カラ見マスと云フト、ソレ等ノ人ハサウ云フコトニ依テ損失ヲ招キマシタ
ガ、國民ハドウカト云フト、其滯銅ガ澤山殖テ非常ニ安イ銅ヲ使ツテ、間接
ニ大ナル利益ヲ受ケタト云フヤウナ結果ニモ相成ルノデアリマス、ソレカラ
銅業者ニ於テ盡スベキコトヲ盡サズシテサウシテ政府ニ頼ツテ、此度ノヤウ
ナ保護ヲ受クルト云フヤウナコトハ不都合デハナイカ、何カ外ニ是等ノ銅業
者ヲ救済スベキ途ハナイカ、補助ト云フモノカ何等カ、是ヲ救済スルニ國稅
ノ方法ニ依ラズシテ、別ノ方法ハナイカト云フ御尋デアッタヤウデゴザイマ
スガ、其點ハ色々政府ニ於テモ考ヘマシタノデアリマス、併ナガラ別ニ良イ
方法ハナイ、衆議院ニ於カレマシテモ、此點ニ付テ保護ノ必要ガアルナラバ
補助金デモ與ヘテ、此場合ニ於ケル救済方法トシテ、ドウモ關稅ノ方法ニ依
ルト云フコトハ面白クナイト云フヤウナ御説モ出マシタケレドモ、ソレハ詰
リ何等カノ補助トカ保護トカ云フコトニナリマスルト、結局費用ヲ以テ之ヲ
保護スル、歸著スル所費用ガ掛カルコトニ歸著スル、補助金ハ政府ノ豫算ニ
於テ假ニ積ルトスレバ、國民ノ租稅ニ之ヲ俟タナケレバナラヌノデ、併シソ

レモ一方法デハゴザイマセウケレドモ、結局是等ノ本當ニ銅ヲ使用スルモ
ノ、所謂銅ヲ使用スル人ガ其責任ヲ有ツタ方ガ適當ナ順序デハナカラウカ、即
チ銅ヲ使用スル人ガ幾ラカ高イモノヲ使フコトニナリマセウケレドモ、之ヲ
使フコトハソレニ依テ利益ヲ受ケルト云フコトニナルノデアリマスカラ、矢
張關稅方法ニ依ツタ方ガ却テ至當ノ順序ト思ハレル、殊ニ此關稅其モノハ又
國庫ノ收入ノ一部ニナリマスカラ、轉ジテ又國民一般ノ利益ニナツテ行ク譯
デアリマス、此關稅方法ニ依テ保護スルト云フコトハ、ドウシテモ此際ニ於
ケル一番良イ方法デアラウ、斯ウ云フコトニ依テ決マッタ譯デアリマス、ソレ
カラ銅業者ニ關係スル勞働者、ソレガ困ルト云フヤウナコトノミニ當局ハ眼
ヲ著ケテ、此加工業者ノ方ノ勞働者ノ困ルト云フコトヲ見ナイノハ、楯ノ一
面ヲ見テノ觀察デハナイカト云フヤウナ御説モゴザイマス、是ハ餘程事情ガ
違フノデハナカラウカト思ハレマス、今日ニ於テ銅ノ加工者、所謂東郷男爵
ノ憂ヘラレルヤウナ多數ノ勞働者ヲ使ツテ此銅ノ加工業ヲシテ居ルモノハ、實
ハ大部分矢張此工業者デアアルノデアリマス、日本デ銅ノ加工業者ト云フモノ
ハドウカト云ハレレバ、住友伸銅所デアリマスルトカ、或ハ古河ノ伸銅所デ
アリマスルトカ云フ風ニ、矢張此銅ヲ使ツテ居ル、矢張加工事業ヲシテ居ル
モノノ統計の大部分ハ矢張是等ノ人ガ直接ニ關係シテ居ルノデアリマス、デ
アリマスルカラ此案ノ全體ト致シマシテ例外ハゴザイマセウケレドモ、所謂
大部分大局カラ之ヲ觀察イタシマスルト、決シテ此矛盾ハ致シテ居リマセヌ
ノデアリマス、決シテ一方ニ於テ之ニ反對スルト云フヤウナコトハナイノデ
アリマス、唯之ニ關聯シテ御質問ノ一番後ノ項目ニナツテ居リマスガ、此際
ニ於テ申上ゲマスルコトハ、此屑ヤ古物ヲ持ツテ來テ何カ輸出品ヲ造ツテ居ル
ヤウナコトハ、加工業者ノ爲メニ大打撃ヲ與ヘ、其輸出ヲ妨ゲルト云フヤウ
ナ大事件ガ行ハレルト云フ御心配デアリマスガ、是ハ決シテ御心配ニハ及ビ
マセヌ、之ヲ輸入イタシマシテモ外國ノ其原料ヨリ或品物ヲ製造シテ外國ニ
輸出スルト云フ、輸出業者ニ對シテ戻稅ノ法ニ依リマシテ、少シモ現在ト變
リマセヌヤウニ致シマスル積リデゴザイマス、而シテ此法案ニハ戻稅ノコト
ハアリマセヌケレドモ、御承知ノ通りソレハ勅令デ出ルコトニナツテ居リマ
スカラ、輸出ニ……此法案ノ爲ニ外國ヨリ原料ヲ仕入レテ輸出品ヲ造ルト云
フモノニ、影響ヲ與ヘルヤウナコトハ致サヌ積リデアリマスカラ、其點ハ御
心配ナキコトニ御願ヒ申上ゲマス、ソレカラ染料、亞鉛、鐵等ノコトニ比較

シテノ御話ガゴザイマシタガ、是ハ全體ヲ通ジテノ順序トシテ最初ニ申上ゲマシタコトニ依テ、御了解ヲ願ヘルコトト思ヒマス、デ免ニ角染料ノ如キハ我國ニ於テ新シイ試デゴザイマス、技術、經驗等ニ於テモ十分デナイコトハ初メカラ分ッテ居ル、半バ是ハ研究ノ爲ニ大ナル費用ヲ使ッテ居リマス譯デアリマス、併ナガラ國家ノ爲ニ相當ナ保護、獎勵ヲ致シマシテモ、是非トモ我國ニ於テ獨立スルマデニ至ラシメナクレバナラス、産業上ノ見地ノミナラズ、或ハ軍事上ノ關係カラモ之ヲ助長スル必要アリト云フ意味ニ於テ致シタ仕事デアリマスカラ、一日モ早ク其目的ヲ達セムト努メツツアル譯デアリマス、ケレドモ其成績ノ十分ニ舉ガラナイコトハ遺憾デアリマス、併ナガラ是ハ繰返シテ申上ゲマスガ、銅ノ如キハデス、立派ナ技術經驗ニ基キ數十年來確ニ世界ニ認メラレタ如キ、確實ナル基礎ノ産業ニナツタ産業トハ、大ニ趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、之ヲ比較シテ此度ノ法案ヲ御批評下サルコトハ少シ酷デアラウト私ハ思フノデアリマス、又亞鉛ニ致シマシテモ、此關稅ノ結果、亞鉛ノ仕事ト云フモノハ今日相當成立ッテ居リマス、但シ亞鉛ニ付マシテハ我國ノ原料ハ非常ニ乏シイノデアリマス、或ハ之ヲ濠洲ニ仰グトカ、印度ニ仰グトカ、兎モ角モ原料ヲ他所カラ持ッテ參リマセスト十分デアリマセス、唯幸ニ礦山ヲ有ッテ居リマス所ハ都合好ク成功シツツアリマス、亞鉛ノコトハ誠ニ幼稚ナ仕事デアリマスカラ、今後如何ヤウニ進展イタスカ分リマセスケレドモ、日本ニ於テ礦石ノアリマス範圍ニ於テ、唯今ノ保護ノ程度ニ於テ段々ニ進歩イタシテ參リマスルコトト思ハレマス、鐵ハ是ハ誠ニ必要ナ仕事デアッテ、今日ノ現狀デハ困ッテ居リマス、最初御協賛ヲ得マシテ鐵ノ所謂輸入稅ヲ増シマシタ其時ニ、時ノ事情カラ申シマスルト、ソレデ目的ヲ達シ得ル積リデゴザイマシタケレドモ、御承知ノ通り世界ノ大變動ノ爲メ、殊ニ鐵ニ關係スル仕事ノ上ニ於テ色々ナ打撃ノ爲ニ、世界各國トモ困ッテ居リマスル現狀ハ東郷男ノ御述べニナツタ通りデゴザイマス、併シ此仕事モ多少程度ニ差ハゴザイマスケレドモ、矢張我國ノ産業ト致シマシテハ銅ノ如キ根柢ノ下ニ、又實驗ノ下ニ進ンダノデアリマセスノデ、矢張最近ニ於ケル發達シタ仕事ノ一ツト私共ハ思ッテ居リマス、ソレカラ次ニ電氣事業ハ非常ナ打撃ヲ受ケルノデナカラウカ、將來我國ノ産業ノ爲ニ根柢トモナルベキ電氣事業ガ打撃ヲ受ケルコトヲ憂ヘラレタ御質問デゴザイマシタガ、政府ハ如何ニモ御同感デ、若モ此法律ノ結果將來電氣事業ニ斯ノ如キ打撃ヲ與

フルト云フコトガアルナラバ、是ハ由々シキ問題ト思ハレル、併ナガラ最モ詳細ニ調査イタシテ見マスルト唯此度ノ關稅ノ結果銅ノ價格ノ上ニ於テハ一割五分、値段ノ上カラ一割五分殖エル譯デアリマス、高クナル譯デアリマス、併ナガラ電氣事業ト云フモノヲ、電氣事業ノ發電所ヲ拵ヘ送電ヲ引イテ、結局全體使フ所ノ經費ト銅ノ全キ所ノ原料タル銅ノ値段ト云フモノニ付テノ割合ヲ比較シテ見マスルト、決シテ大キナ數字ハナイノデアリマス、一割五分ト云フモノハ僅ニ何分ト云フモノニ下ラヌ譯デアリマス、デアリマスカラ、全體經費ノ上ニ何分上ツタ二分上ツタ、一割五分ナリ、二分ナリ上ツタト云フコトハ、非常ナ打撃ト私言フコトハ出來マイト思ヒマス、況ヤ將來ノ問題トナリマス、今後年々期シテ數年數十年ノ後ノ云々ト云フ御心配ガアリトスレバ、冒頭ニ申上ゲマシタ如ク、此今日ノ當業者ノ憐レナル有様ト云フモノハ、サウドウモ將來モ何十年ノ間續クト云フヤウナコトハ有リ得ベカラザルコトデ、段々今迄ノ歴史沿革カラ見マシテモ、世界ノ此銅產國トシテノ關係カラ見マシテモ、サウ云フコトハナイコトデアリマス、將來ハ我國ノ銅ノ需要者ハ、過去ノ何十年ニ於ケルガ如ク、世界ノ人ヨリハ有利ナ地位ヲ占メテ廉イ銅ヲ使フト云フコトニナラナケレバナラス、又ナルモノト私共ハ信ジテ居リマスノデアリマス、當分ノ中ト云フコトニ付テ、次ノ御疑念モゴザイマシタガ、唯今申上ゲマスルヤウナ實際ノ事實デアリマスカラシテ、此當分ト云フコトガ非常ニ長ク續クト云フ御心配ハ御無用デアルト思ヒマス、固ヨリ當分ト云フコトニ一定ノ意味ハナイカモ知レマセスガ、此事業ニ關スル問題ニ於テハ、少ナクトモサウ云フ非常ナ遠キ將來ト云フコトハアルベキ筈ハナイト私共信ジテ居リマス次第デアリマス、次ニ眞鍮ト銅ノ割合ノコトニ付テ御疑念デアリマシタガ、是ハ現在ニ於テ眞鍮ノ方ガ高クナツテ居リマス、遙ニ高クナツテ居リマス、詰リ加工品トシテノ關係カラ之ガ起ツタモノト思ハレマスノデ、是等ノ割出方ノ詳細ニ付テハ、何レ委員會等ニ於テ大藏當局ヨリ精シク申上クル機會ガアラウト存ジマス、兎モ角ハ改メテ此度ノ法案ヲ出シタノデナクシテ、現行法ニ依テ譯デアリマスカラ、當局ノ見誤リデゴザイマセス、此コトハ御斷リ申上ゲテ置キマス、屑ノコトハ曩ニ申上ゲタ通り、戻稅ノ方法ニ依テ輸出業者ノ今日ノ利益ヲ侵サヌヤウニ致シマス積リデアリマスコトヲ重ネテ申上ゲマス、次ニ發電機ノコトニ付テノ御議論モゴザイマシタガ、是モデス、一體發電機ノ如キ一種ノ精巧ナル機械ヲ造ルト云

フコトニ於キマシテハ、工賃其他ノ關係ノ方ガ費用ノ大部分ヲ占メテ居リマスカラ、今日ノ他ノ機械ヨリ銅ノ使フ分量ハ多クハゴザイマセウケレドモ、其原料ノ銅ノ値段ガ一割五分上ゲタト云フコトノ爲ニ、全體ノ發電機械ノ上ニ大ナル變化ヲ及ホスト云フコトハナイ積リデゴザイマス、是モ相當細カク調べタモノモゴザイマスルカラ、委員會等ニ於テ夫々御説明ヲ申上ゲル機會ガアラウト存シマス、各般ニ互ッテ御尋デゴザイマシタノデ取落シタコトモ澤山アラウト思ヒマス、大要右ノ趣旨ニ基イテ御推察下サルコトニ御願ヒ申上ゲマス

○男爵東郷安君 唯今政府委員ヨリ縷々御説明ニ相成リマシタガ、御説明ノ要點ハ徒ニ過去ニ於ケル日本ノ産銅業ノ沿革、及ビ是ノ進歩發達ニ重キヲ置カレタノデアリマス、現在此問題ガ何ノ理由ニ依テ提出サレテ居ルカニ付テ、根本ノ事實ヲ閑却サレタヤウナ感ガアルヤウデアリマス、即チ現在ノ關稅ヲ引上ゲルト云フ問題ハ、内地ニ於ケル滯銅ハ亞米利加ノ滯銅ノ壓迫ニ起因スルモノデアリマス、之ヲ如何ニシテ防グカ、又之ヲ此ノ事態ニ對シテ内地ノ同業者ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、消費者トシテ如何ナル態度ヲ執ルカガ問題ノ中心デアリマス、デアリマスカラ、過去ニ於ケル産銅業ノ沿革ハ極メテ順調ナル進歩發達ヲシタカラ、將來ニ於テモ尙ホ是ノ進歩發達ヲデス、順調ニ持續シ行カナケレバナラスト云フコトハ、經濟上ノ理窟ヲ離レテ唯抽象的ノ考ナラバソレハ宜シウゴザイマス、今日ハ事實ニ付テノ問題、計數ニ付テノ問題、又經濟消費ノ問題デアリマスカラ、宜シク經濟上ノ原則ニ付テ此點ニ付テ特ニ御立論アラムコトヲ希望イタシマス、ノミナラズ唯今田中次官ノ御説明ニ依リマス、關稅ヲ引上ゲタガ爲ニ内地ノ産銅業者ハ息ヲツク、即チ助長セラレルモノデアルト云フ御意見デアリマス、私ハ此點ニ付テハ先程縷々申上ゲタ通り、遺憾ナガラ政府ト所見ヲ異ニシテ居リマスノミナラズ、亞米利加ニ……

○議長(公爵德川家達君) 矢張御質疑ノ繼續デゴザイマス、御意見デゴザイマス

○男爵東郷安君 繼續デゴザイマス、簡單デゴザイマスカラ暫ク御猶豫ヲ願ヒマス、亞米利加ニ於ケル所ノ産銅業ノ規模、其他ノ事情ヲ能ク御覽ニナリマスレバ、内地ニ於ケル産銅業者ガ如何ニ生産的ノ仕事ヲシテ居ルカ、如何ニ彼等ノ生産費引下ゲニ對スル用意ガ不行届デアルト云フコトガ能ク分

ルト思ヒマス、此點ニ付テハ巨細ノ點ヲ承リタイ、ソレカラ加工業ニ對シテ私ノ説明ガ不十分デアッタカモ知レマセスガ、政府委員ハ單ニ大ナル組織ノ伸銅所ノミヲ加工業トスルト云フコトデアリマスガ、サウ云フコトバカリデハナイノデアリマス、ソレハ大ナル資本ニ依テ組織セラレタ數多ノ工場ガアリマス、其他ニ大都市ニ於テハ多數ノ加工業ガ散在シテ居ルノデアリマス、此事實ハ能ク當局ニ於テ御調ベヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ當分ト云フコトニ付テノ御説明ガアリマシタガ、遺憾ナガラ之ニ對シテハ、私ハ十分満足ノ御答辯トハ認メラレナイノデアリマス、ソレカラ發電機ノコトデアリマシタガ、是ハ大藏當局、次官ヨリ能ク御研究ヲ願ヒタイ、現在ノ稅率ガ出來テ居リマス基礎ハ、此發電機ノ中ニ、約二十「パーセント」ト云フモノガ銅ノ使用量デアル、從テ今日ノ新ナル稅率ヲ計上致サレニ付マシテハ、新稅率ノ七圓カラ舊稅率ノ一圓二十錢ヲ引イテ、銅ノ使用量ヲカケタモノガ基礎デアリマス、斯ウ云フ數字ノ根據カラ稅率ト云フモノガ出來テ居ルノデアリマス、單ニ唯今ノ次官ノヤウニ抽象的ノ御答辯デハ私ハ満足スルコトハ出來マセス、ノミナラズ或ハ稅率ニ相違シテ居ル、斯ウ思フノデアリマス、尙ホ種種ナ點ニ付テ伺ヒタイト思ヒマスガ、今日ハ時間モ迫ッテ居リマスカラ是デ止メマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔長書記官朗讀〕

銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案特別委員

伯爵吉井 幸藏君 服部 一三君 子爵秋月 種英君

男爵藤井 包總君 男爵小早川 四郎君 男爵福原 俊九君

男爵藤田 平太郎君 安樂 兼道君 西川 甚五郎君

○議長(公爵德川家達君) 日程第七、健康保險法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、田中農商務次官

健康保險法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正十一年三月十五日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

健康保險法案

健康保險法

第一章 總 則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第一百五十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險者ハ被保險者ヲ使用スル事業主ニ對シ其ノ使用スル者ノ異動、報酬其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシムルコトヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ保險者ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ前項ノ規定ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十二條 政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

一 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

三 電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業

四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

六 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

七 貨物積卸ノ事業

八 前各號ニ掲クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ニ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所ニ以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレサルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシモノ又ハ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間内ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、保險料ヲ納付セスシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定

ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス
前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保險者

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主、其ノ事業ニ使用セラルル被保險者及

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スルニ以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラ
ル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

前項ノ被保險者ハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキト雖第二十
條ノ規定ニ依ル被保險者タルトキハ仍之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サ
レハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシ
メ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナ
ル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員
保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏
又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔ト
ス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務
大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ
ト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困
難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命
スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承
繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及
利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務
大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險者ヲ

病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリ
タル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療
養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間
傷病手當金トシテ一日ニ付報酬額ノ百分ノ六十二相當スル金額ヲ支給
ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ
於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之
ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ
因リ發シタル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ
療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス
被保險者ハ前二項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間療養ノ
給付ヲ受ク

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定ス
ル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコ
トヲ得

一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主
ヨリ申請アリタルトキ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提
供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ
前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ
事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル
者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十
日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之
ヲ二十圓トス

被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘ

キ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

第六十一條 被保險者鬭爭若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 本法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

前項ニ掲クル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ

全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租税其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 被保險者及被保險者ノ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險

料ヲ徵收セス

一 傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第六十二條第一項各號ノニ該當スルトキ

第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ其ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依リ訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康保險審査會ノ審査ヲ經、主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スヘシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ

通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第六十七條及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ノ遲延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員田中隆三君演壇ニ登ル〕

○政府委員(田中隆三君) 健康保險法案ノ提出ノ理由ヲ申述ベマス、御承知ノ通りニ勞働保險ト申シマスルモノハ、世界ノ法制ト致シマシテハ、各般ノ事項ヲ含シ居ルヤウデゴザイマスガ、此度提案イタシタノハ、此勞働保險ノ中ノ怪我ト病氣ト此二種類ダケノモノニ付マシテ、法案ヲ編成イタシタ次第デゴザイマス、其殘リノ或ハ失業保險デアリマスとか、癱疾保險デアリマスとか云フヤウナモノニ付マシテハ、將來モウ少シ調査ノ歩ヲ進メマシテ、順

ヲ追ウテ御協賛ヲ仰グコトニ致シタイ、ソレ等ノモノガ全體相俟ッテ世ニ言フ所ノ所謂勞働保險法ト云フモノガ完成イタスコトニナリマス譯デゴザイマス、申上ゲル迄モナク、此ノ勞働保險ノ制度ヲ立テマシテ勞働者ノ生活上ノ安定ヲ圖リ、又勞働者ノ健康ヲ保持イタサセマシテ所謂勞働能率ヲ上ゲル、又此施設ガ基トナリマシテ、勞資協調ノ實ヲ擧ゲテ、所謂産業ノ發達ヲ圖ルト云フコトハ、今日ノ時代ニ於テ極メテ重要ナルコトデアラウト云フ意味ヲ以テ、先ニ是等ノコトニ關スル調査ヲ致ス必要ヲ認メマシテ、豫算ニ經費ヲ計上ヲ致サレマシテ、其御協賛ノ結果相當ナ委員ヲ設ケマシテ、二箇年餘ヲ費シマシテ、色々ノ調査ニ當リ、傍ラ外國ノ事例モ參酌イタシマシテ、此度ノ法案ヲ編成イタシマシタ次第デゴザイマス、要スルニ此度ノ法案ハ一部分デゴザイマスノデ、勞働保險トシテハ何トナク不足ヲ感ズルヤウナ氣味合モゴザイマセウケレドモ、兎ニ角一部分ト雖モ其案ノ成ルニ從テ御協賛ヲ仰グコトハソレダケ一部分デアルケレドモ、其程度ニ於テ殊ニ又勞働保險ノ中ノ傷害ト疾病ト云フコトハ、大ナル制度ノ一部分デゴザイマスカラ、此制度ノ實施ヲ一日モ早ク希望イタシマスル意味ヲ以テ、此度法案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザイマス、ドウゾ御審議ノ上御協賛ヲ賜ハラムコトヲ希望致シマス

○男爵東郷安君 此際質問ヲ致シタイノデアリマスガ、簡單デアリマスカラ此席ヨリ……

○議長(公爵德川家達君) ドウゾ質疑ト仰セラレマスナラ、事實質疑ニ願ヒタウデゴザイマス

○男爵東郷安君 只今御提案ニナリマシタ、健康保險法案ニ付マシテ、一點此際伺ッテ置キタイコトガアリマス、此制度ハ今日我國ニ於テ始メテ制定セラレタモノデハナイノデアリマス、既ニ歐米各國ニ於テ其先例ガアルノデアリマス、而シテ是等ノ先例ノ結果ハ悉ク勞働者ノ怠慢ヲ來シタノデアリマス、其結果ガ甚ダ惡カッタト云フコトハ事實ニ於テ、各國ノ調査會其他ノ報告ガアルト云フコトハ、當局ニ於テモ十分御認メニナッテ居ルデアラウト思フ、此點ニ付マシテ政府ハ如何ナル御用意ガアリ、如何ナル御考慮ガアッタノデアリマスガ、其點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(田中隆三君) 御答申上ゲマス、此勞働保險ヲ實施ヲ致シマシタ各國ノ例ニ於テ、失敗ノ歴史ヲ持ッテ居ルト云フヤウニ御判斷ニナリマシタヤウデアリマスルガ、調査會ニ於キマシテモ、農商務當局ニ於キマシテモ、左

様ニハ認メマセヌノデス、唯此勞働保險ト云フモノニ對スル心配ノ點ハ、之ニ依テ丁度御質問ノアリマシヤウニ怠慢トカ所謂假病ヲ使フト云フヤウナコトノ虞レガアル、此法律ハ必要デアルケレドモ、法律ヲ編成スルニ當ツテ、其假病怠慢ヲ防止スルコトニ付テ、大ニ注意ヲ致サナケレバナラスト云フコトガ、此議論ノ根柢ニナラウト認メテ居リマスル、ソレ故ニ此度此法律案ト致シマシテハ、唯、政府或ハ事業者ノ依頼心ヲ惹起サセルヤウナコトデハイカヌノデ、自カラ矢張大ニ其費用ノ負擔ヲシナケレバナラス、此法案ノ根柢トナツテ居リマスル凡ソ一年ノ保險、病氣疾病等六箇月間ノ費用ヲ全部受持ツモノト致シマシテ、一人ニ付テ凡ソ二十圓位ノ貯金ガアレバ宜シイト云フ根柢デ出來テ居リマス、而シテ其二十圓ノ中政府カラハ二圓補助ヲ致シマスガ、アトノ十八圓ヲ二分シテ九圓ツ、ハソレハ勞働者自カラ九圓ノ掛金ヲシナケレバナラスシ、工場主自カラ九圓ノ費用ヲ出サナケレバナラス、詰リ自カラ其保險料ヲ拂フト云フノデ、第一負擔ヲ負ハシテ居リマス、工場主モ假病モ防グコトニ付テ其假病等ガ多クナリマスルト、費用ガ増ス譯デアリマスカラ、工場主モ注意ヲ致シマセウ、又政府ト致シマシテモ、ソレゾレ監督機關ヲ設ケマシテ、サウシテサク云フ怠慢假病等ヲ防ギ又此法案ニ於キマシテ、第六十三條第六十四條第六十五條等ノ規定ニ依リマシテ、苟モ假病ノ疑アルヤウナ者ニ對シテ十分ナル監督ヲスル途ヲ開イテ居リマス、ソコデソレ等ノ不心得ナ者ニ向ツテハ給付ヲ差止メル、中止スルト云フヤウナ制裁ヲ以テ、サウ云フヤウナ心配ノナイヤウニ致ス用意ヲ致シテアル積リデアリマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

健康保險法案特別委員

子爵片桐 貞央君	北里 柴三郎君	男爵武井 守正君
上山 滿之進君	男爵平野 長祥君	男爵岩 佐新君
江木 翼君	金杉 英五郎君	横山 章君

○議長(公爵德川家達君) 日程第八、和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、淺田德則君

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕
和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ因テ及報告候也

大正十一年三月十四日

右特別委員長

淺田 德則

貴族院議長公爵德川家達殿

○淺田德則君 只今上程セラレマシタル和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、我々委員會ニ於キマシテ審議ヲ致シマシタ結果、本案ハ是認イタシマシタノデゴザイマスガ、茲ニ其内容ヲ簡單ニ御報告イタシマス、此和賀輕便軌道ト申シマスルノハ、此ノ所在地ハ東北本線ニ當リマス所ノ黑澤尻、横手ニ通ジマスル所ノ鐵道線路ニ沿フタル所ノ線デアリマシテ、是ハ全ク東北鐵道ノ黑澤尻カラシテ横手ニ參リマス、近接イタシテ並行致シテ居ル線デアリマシテ、此輕便軌道ハ明治四十年度ヨリ開業致シマシテ、爾來相當ノ利益ヲ擧ゲテ居ッタデアリマス、然ニ政府ニ於テ黑澤尻ヨリ横手ニ參リマス線ヲ敷設イタシマシタ爲ニ、全ク其利益ヲ失ヒマシテ營業スルヲ得スト云フコトニ相成リマシタデアリマス、ソレ故ニ政府ハ軌道條例ノ第五條及ビ地方鐵道法ノ第三十六條ニ依リマシテ、補償ヲ致スト云フコトニ相成ッタデアリマス、又此補償ノ金額ニ於キマシテモ鐵道法ノ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ依リマシテ、ソレゾレ算出ヲ致シマスル根據ヲ示シテアリマス、此方法ニ依テ相當算出ヲ致シテ、算出イタシタ金額ハ、即チ公債ヲ以テ支辨スルト云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、是ハ只今申上ゲマスル通りニ止ムヲ得ナイ補償ノ義務ヲ生ズルコトト存ジマス、委員會ニ於キマシテハ二三質問ハアリマシテ全會一致ヲ以テマシテ、衆議院送付ノ通りニ決定イタシマシタ、此段御報告ヲ致シマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ
「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第九、第十、第十一ハ同一委員ニ付託セラレマシタカラ、委員長ノ報告ハ一括シテ煩ハシタク存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第九、明治四十四年法律第六十一號中改正法律案、日程第十、明治四十四年法律第四十九號中改正法律案、日程第十一、明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案、第一讀會、委員長報告

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月十五日

右特別委員長

貴族院議長公爵德川家達殿

子爵吉田 清風

明治四十四年法律第四十九號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ因テ及報告候也

大正十一年三月十五日

右特別委員長

子爵吉田 清風

貴族院議長公爵德川家達殿

明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ因テ及報告候也

大正十一年三月十五日

右特別委員長

子爵吉田 清風

貴族院議長公爵德川家達殿

「子爵吉田清風君演壇ニ登ル」

○子爵吉田清風君 唯今議題ニナツテ居リマス所ノ三ツノ法律案ハ、過日同一委員ニ付託セラレマシタカラ、東ネテ委員會ノ經過並ニ結果ノ御報告申上ゲマス、明治四十四年法律第六十一號中改正法律案ノ内容ハ、從來臺灣樺太ニ在勤イタシテ居リマス所ノ官吏ニ對シテ、恩給加算年ノ制度ニ依リマシテ、在勤一箇月同地ニ勤メテ居リマス所ノ者ハ一箇月半ニ勘定シテ居リマス、然ニ朝鮮總督府ニ居リマス所ノ官吏ニモ同様ノ制度ガゴザイマスケレドモ、内地カラ朝鮮ニ行ツテ居リマス所ノ内地ノ官廳ノ所屬ノ官吏デ、陸海軍所屬ノ文官ヲ除イタ外ハ此制度ハゴザイマセヌ、然ニ此度朝鮮ニ於キマスル所ノ大學ノ所屬ノ演習林ニ務メテ居リマス者ニモ、同ジヤウニ恩給加算ノ制度ヲ設ケタイト云フ改正案デゴザイマス、尙ホ次ニ明治四十四年法律第四十九號中改正法律案ハ、朝鮮ノ京城ハ朝鮮ノ内デ中心ノ所デアツテ、消防設備ノ完成ヲ期シタイト云フ所カラ官制ヲ改メマシテ、其消防手ニ判任官待遇ヲ與ヘル、是等ノ消防夫ニ是ガ爲ニ巡查看守ト同様ナ退隱料遺族扶助料ニ勤續年數ヲ加算

イタス爲ニ、即チ二箇年以上勤続イタシテ居リマスモノニ、一箇月ヲ一箇月半ニ計算スルト云フ法律案中ニ、判任官ノ待遇ヲ受ケマス消防夫ト云フ字句ヲ加ヘル改正案デアリマス、ソレカラ明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案ハ、此度南洋廳ガ出來マスニ付テ、南洋諸島ニ在勤シテ居リマスル所ノ官吏ノ恩給支給ニ關シマシテ、臺灣ニ在勤イタシマス所ノ官吏ト同一ノ待遇ヲ與ヘル爲ニ、恩給加算ノ規定ヲ準用シタイト云フ法律ノ準用デゴザイマス、右三案ニ付キマシテハ唯今申上ゲタ通り、詳細ニ政府ノ説明ヲ聞キマシタ上デ、二三ノ質問應答モゴザイマシタガ、三案トモ極メテ簡單デゴザイマスカラシテ、直チニ討論ニ入りマシテ評決ノ結果、全會一致ヲ以チマシテ原案通り可決イタシマシタ、右報告申上ゲマス

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、唯今委員長ノ報告セラレマシタ三案トモ一括シテ議題ト致シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 三案トモ第二讀會ニ移シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 三案ノ第二讀會ヲ直チニ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、三案全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 直チニ三案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ノ議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會
午後零時二十八分散會

